鹿児島県奄美パーク

事業報告書

2016

LEAF

目　　次

第１　鹿児島県奄美パーク概要　・・・・1

第２　平成２８年度の事業実績について　・・・・2

第３　奄美の郷企画事業　・・・・3

１　季節感(年中行事)を取り入れたイベント　・・・・３

⑴　第１０回奄美パークわらべシマ唄大会

⑵　あまみっ子フェスタ

⑶　ネリヤカナヤフェスタ

⑷　サマーコンサート

⑸　奄美パーク夏まつり～シマジマ（沖永良部島）だより～

⑹　フユウンメコンサート

⑺　初春唄あしび

⑻　奄美パーク新春寄席

⑼　奄美パーク春まつり～サンガツサンチ～

２　奄美の郷ライブステージ　・・・・１２

⑴　ゴールデンウィークしまうたミニライブ

⑵　初夏の風にのせて伝えたい七色の心

⑶　奄美パークキッズダンスフェスタ２０１６

⑷　夏休みしまうたミニライブ

⑸　月に焦がれて

⑹　ゆらう（瀬戸内町）

⑺　奄美パークパフォーマンスバトル２０１７

３　文化講演会　・・・・１７

４　わきゃステージ in パーク事業　・・・・１８

⑴　第８弾　島んちゅ会でぃ～まぁじんま

⑵　島唄あしび

⑶　鼓祭

⑷　ホースセラピー講演会

⑸　アマービレ吹奏楽団スプリングコンサート

５　その他自主事業及び共催事業　・・・・２１

⑴　奄美パーク開園１５周年記念　感じよう！奄美の自然！！～世界自然遺産登録に向けて～

⑵　奄美パーク開園１５周年記念　バブルサッカー大会

⑶　文化の日イベント

⑷　第１０回奄美パーク子どもクリスマス会

⑸　けんむんクイズラリー

第４　田中一村記念美術館企画事業　・・・・２５

１　奄美関連作家展及び招待作家展　・・・・２５

⑴　大島紬の伝統・創作デザイン展
⑵　琉球弧の祈り～前畑省三「神女誕生」シリーズから～
⑶　少女マンガパワー展 in 奄美
⑷　曽令富・曽勤・曽黎父娘三人展～奄美の自然を描く～
⑸　前田康裕まんがイラスト展～教室の学びを拓く～
２　県美展奄美関連作家展　・・・・２９
３　田中一村記念スケッチコンクール作品展　・・・・３０
４　第１５回記念奄美を描く美術展　・・・・３１
⑴　本展
⑵　巡回展
⑶　入選・入賞作品
５　その他企画展　・・・・３６
⑴　開館１５周年記念企画展「田中一村応援団」
⑵　龍郷町立小・中学校図画工作・美術学習発表展
６　芸術文化講演及び美術講演　・・・・３８
開館１５周年記念企画展「田中一村応援団」オープニングイベント
７　創作体験教室ほか　・・・・３９
⑴　創作体験教室・楽しい絵画教室「奄美を描こう」
⑵　一村・子どもワークショップ「一村の絵に学ぶ」
⑶　夏休み親子「織り体験」
⑷　内藤敏子チター演奏会
⑸　創作体験教室「人物画講座」

第５　各種イベントポスター　・・・・４５

第６　奄美パーク応援隊について　・・・・５０

第１　鹿児島県奄美パーク概要

１　施設の目的

鹿児島県奄美パークは，奄美の美しい自然や多様な文化・歴史をわかりやすく紹介した総合展示ホールや奄美シアター，人々の交流の場を提供するイベント広場からなる「奄美の郷」と，奄美の自然を描き集大成させた孤高の日本画家「田中一村」の作品を紹介する「田中一村記念美術館」の二つの施設を中核とする奄美群島全体の新たな観光拠点施設として，奄美市笠利町節田の旧奄美空港跡地に建設された。

２　設　置　者　　鹿児島県

３　開園年月日　　平成１３年９月３０日

４　指定管理者　　奄美群島広域事務組合

５　園長兼館長　　宮崎　緑（千葉商科大学国際教養学部長，ＮＨＫ「ＮＣ９」初の女性ニュースキャスター）

６　園 地 面 積　　約７７，０００㎡

７　総 事 業 費　　約７８億円

８　施設の概要

(1)　**奄美の郷**（延べ床面積約３，２００㎡）

白い貝殻をイメージした外観。建物内の梁などは，琉球松の大断面集成材でソテツの葉をイメージした造形。

〇総合展示ホール，奄美シアター（有料）

〇アイランドインフォメーション，イベント広場，レストラン，売店

(2)　**田中一村記念美術館**（延べ床面積約２，４９０㎡）

奄美の海をイメージした池に３棟の高倉が浮かぶ設計。床はイタジイを使用。

〇常設展示室，特別展示室（有料）

〇企画展示室，ガイダンス室，図書資料室，喫茶・ミュージアムショップ

(3)　**一村の杜**（面積７，０００㎡，平成１９年７月２０日完成）

６つのスポットで構成されている遊歩道。田中一村の奄美での作品に描かれている草木を植栽。それぞれのスポットで作品に描かれている風景を鑑賞。

(4)　**その他の施設**

〇多目的広場(約３，７８０㎡)，野外ステージ，展望台，駐車場(約２４０台)

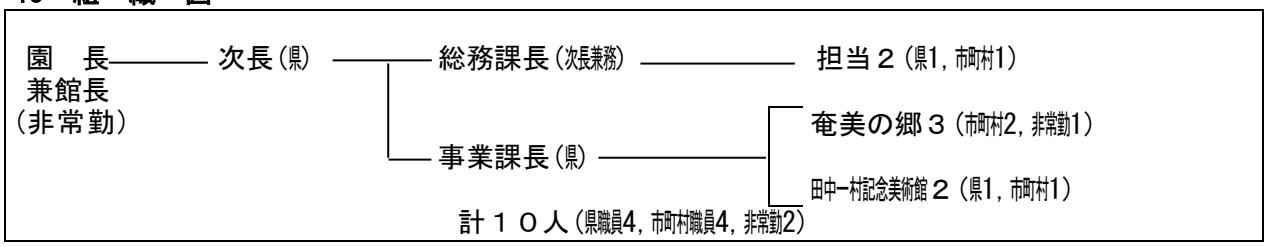
９　観 覧 料 金　　共通観覧料：一般６２０円（２０人以上の団体は４９０円）
高・大学生４１０円（同３２０円）
小・中学生３１０円（同２４０円）

10　休　園　日　　毎月第１，第３水曜日(祝日の場合は翌日)
(4/29～5/5，7/21～8/31，12/30～1/3 は開園)

11　開 園 時 間　　９：００～１８：００（７月，８月は１９：００まで）

12　入 園 者 数　　平成２９年３月末現在　延べ２，１２７千人(平成２８年度入館者数１０万５千人)

13　組　織　図



第２　平成２８年度の事業実績について

奄美パークは，世界的にも優れた奄美の自然や島唄・民俗芸能等の伝統文化，伝統産業など，奄美の魅力を国内外に情報発信する奄美群島全体の観光拠点施設として，平成１３年９月に開園しました。奄美の美しい自然や多様な文化，歴史をビジュアルに紹介する「奄美の郷」と，奄美の自然を描き集大成させた孤高の日本画家，田中一村の作品を紹介する「田中一村記念美術館」の二つの施設を中核とし，また，奄美群島に居住する方々の交流の場でもあります。「奄美の郷」では，総合展示ホールや奄美シアター，アイランドインフォメーションで奄美を紹介し，イベント広場においてシマ唄，伝統芸能，踊りなどで構成するイベントを開催しています。「田中一村記念美術館」では，常設展示のほか，「企画展示室」において奄美関連作家展，招待作家展，奄美を描く美術展，創作体験教室などを開催しています。

平成２８年度は，９月３０日に開園１５周年を迎えたことから，１５周年記念イベントとして「奄美の郷」では，地元奄美市笠利町出身で日本レスリング協会強化本部長の栄和人氏やリオデジャネイロオリンピックメダリストの吉田沙保里選手，登坂絵莉選手，土性沙羅選手をお迎えした文化講演会をはじめ，奄美大島で初の開催となるバブルサッカー大会，田中一村記念美術館では，一村のスケッチや筆などの遺品や一村が撮影した写真も展示した企画展「田中一村応援団」の開催，「奄美を描く美術展」の巡回展を東京で開催するなど，様々なイベントを開催しました。また，１０月には中孝介さんのデビュー１０周年を記念したライブが当園で開催されるなど，文化芸術の振興，施設の利用促進を図ることができました。

平成２８年４月に発生した熊本地震による九州への観光客減少の影響などにより，４月，５月の入館者数は例年に比較し少なかったものの，国の「九州観光支援のための割引付旅行プラン助成制度」の効果などにより徐々に入館者数も増加し，平成２５年度以降４年連続して前年度と比較しプラスとなりました。入館者数は，平成１３年９月の開園以来，平成２９年３月末で約２１３万人となりました。

奄美群島においては，世界自然遺産登録の足がかりとなる国立公園指定や平成３０年のＮＨＫ大河ドラマ「西郷どん」の放映決定，関西空港－奄美間のバニラエアの就航などにより，今後ますます交流人口の拡大が見込まれているところです。

このような中，奄美パークでは，平成３０年に予定される世界自然遺産登録に向けた奄美の郷展示等のリニューアルに取り組むなど，奄美群島への追い風を逃すことなく，引き続き皆様の助言やお力添えをいただき，様々な事業を展開しながら誘客に取り組んでまいりますので，今後ともどうぞよろしくお願いします。

奄美の郷

田中一村記念美術館

第３　奄美の郷企画事業

１　季節感（年中行事）を取り入れたイベント

（１）第１０回奄美パークわらべシマ唄大会

日時：平成２８年５月５日（木・祝）９：３０～１５：００

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約３８０名

内容：　奄美の将来を担う子どもたちが，シマ唄を通じて奄美固有の伝統文化への理解を深めるとともにその技法を学び，シマ唄文化を広く後世に伝える目的で毎年度開催しており，今年度で第１０回目の開催となった。

参加者は小学校低学年の部に１９名，小学校高学年の部に２４名，中学生の部に１１名の５４名で，地域別としては，奄美市名瀬を中心に，奄美市笠利町，龍郷町，瀬戸内町，喜界町など多くの地域に及んだ。

山田審査員長からは，「出場者のレベルが年々高まり，採点成績も接近している。特に中学生の部では，日頃積み重ねた練習の成果が現れている。」などと講評があった。

来場者は本選出場者のシマ唄はもちろん，ゲストに招いた平成２７年度各部門の優勝者３名（朝岡歩紀花さん・辻竜生さん・朝岡明紀さん）のほか，特別ゲストの當原優芽さん，辻美里さん，森永あすかさんのシマ唄にも終始楽しんでいる様子だった。

また，今回１０回目の節目を迎え，これまで児童への指導・育成に携わってこられた方々（日置幸男さん，平久美さん，永井しずのさん，界眞子さん）及び第１回奄美パークわらべシマ唄大会から審査員を務めていただいている山田薫氏，生元高男氏に宮崎園長から感謝状が贈られた。

（２）あまみっ子フェスタ

日時：平成２８年５月８日（日）１０：００～１５：００

場所：屋内イベント広場ほか　入場者数：約３４０名

内容：　ゴールデンウィーク期間中は，こどもの日を中心に島内でもイベントが多く，行楽客が分散する傾向にあることや，島外からゲストを招くことが困難であることなどから，ゴールデンウィーク最終日の日曜日に設定し開催した。

今回は，１日を通して奄美手熟師会が創作体験として竹とんぼ作りや，ソテツの実でナリ細工などの手作り教室を行い，また，奄美市レクリエーション協会が屋外でバルーンアート，昔遊びなどを行い，それぞれに親子で楽しむ姿がみられた。

ステージでは，午前の部として節田小学校の５，６年生によるアマンディー太鼓で始まり，最後は，大道芸人Ｋｉｂｉｔｏ（キビート）さんの会場を巻き込むパフォーマンスで会場を盛り上げ，楽しませた。

午後の部は，伊津部小学校のさざ波バンドによる躍動感あふれるダンスや，迫力のある三味線や太鼓の演奏で始まり，Ｂ→ＭＡＴＯＮＤＳ（ビーメイトンズ）やダンススクールＣＯＲＥのダンスが行われ，最後には，午前の部でも登場した大道芸人Ｋｉｂｉｔｏさんが，午前の部とは，ひと味違ったパフォーマンスを披露し，あまみっ子フェスタを締めくくった。

来場者のほとんどが親子連れで，ゴールデンウィーク最終日を親子で楽しめるイベントとなった。

（３）ネリヤカナヤフェスタ

開催期間：平成２８年７月１７日（日）～８月３１日（水）

①オープニングイベント

日時：平成２８年７月１７日（日）１３：３０～１５：５０

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約４３０名

内容：　平成２８年７月１７日（日）から８月３１日（水）までの期間で開催する「ネリヤカナヤフェスタ」のオープニングイベントとして，「ネリヤカナヤフェスタ～フラダンスパーティー～」を開催した。奄美群島内で活動するフラダンス教室や団体を公募し，今年は８団体が集まった。

会場には，華やかなフラガールたちの踊りを一目見ようと，多くの観客が詰めかけた。

イベントのオープニングを飾ったのは，笠利町崎原集落のフラダンス教室「Hula-みんご」であった。小学生の子供たちが，一生懸命踊る姿は会場を和やかな雰囲気に包みこんだ。

イベント中盤では，特別ゲストとして大和村湯湾釜在住のバンド TWIN SOUL が出演し，「Kanohona Pili Kai」と「海の声」２曲を披露した。ボーカルの keito さん

が歌い始めると，その透き通るような歌声に会場の観客やフラガールたちは静かに耳を傾けていた。

最後のトリを飾ったのは，奄美の地に初めてフラを立ち上げ，今年で２０周年を迎えるロイヤルフラ仲山教室であった。今年初出場のロイヤルフラ仲山教室の出演者は約２０名で，その華やかで堂々としたフラダンスは観客を魅了した。

イベント開催中，出演者が他の教室のダンスを見て，意見交換をする場面などが見られ，今回のイベントを通して出演者同士の交流を深めることができた。

出演者は以下のとおり。Hula-みんご，リコフラダンス教室，アヌエヌエ喜界，ロイヤルフラ仲山教室，ハウオリ AI スタジオ，フラ教室ち一子，Halau O Lehua O Kalani 奄美大島校，ALOHA HULA AMAMI。

②展示関係

期間：平成２８年７月１７日（日）～８月３１日（水）

場所：アイランドインフォメーション及び奄美シアター付近

期間中の入場者数：１０，４０５名

内容：　奄美の海の魅力を再認識してもらうため，平成２８年７月１７日～８月３１日の期間に「ネリヤカナヤフェスタ」を開催した。内容は，海に関する写真展や映像の上映，貝殻・サンゴ・貝細工の展示であった。

アイランドインフォメーションでは，「極上奄美！サンゴの森に跳ぶ鯨」と題して写真展や映像の上映を行った。写真や映像の提供は，奄美で日々サンゴ礁保全やウミガメ類の繁殖生態，鯨類に関する調査研究に取り組んでいる興克樹氏であった。

写真展は，７２点もの写真を壁一面に展示し，サンゴの産卵や鯨・ウミガメの遊泳，ウミガメの産卵などボリュームのある内容であった。来場者は興味深そうに写真展を見ており，幅広い年齢層の方が写真展を楽しんでいた。特にウミガメは子供たちから人気があり，立ち止まって見る姿も見られた。また，奄美のどの辺りで鯨を見ることができるのかといった質問もあった。

シアター付近には，興氏が提供した映像と奄美海洋展示館から借用したサンゴや貝殻，貝細工を展示した。映像は写真展で展示している生き物が実際に動いて

いる様子を上映した。

来場者は，角度を変えながら貝殻の写真を撮影したり，親子で貝殻を眺め「大きいね」など感想を言い合ったりと楽しそうにする姿が見られた。

夏休み期間に開催したことで，観光客や地元の人々に奄美の海の魅力を再認識して貰えるイベントとなった。

③自然写真家 興克樹 講演会「魅惑の海洋生物」

日時：平成２８年７月３１日（日）１４：３０～１５：３０

場所：レクチャールーム　参加者数：２０名

内容：　ネリヤカナヤフェスタの開催期間中に奄美の海の魅力をより深く知ってもらうため，自然写真家の興克樹氏による講演会を行った。同氏は，フェスタ開催期間中の写真展「極上！サンゴの森に跳ぶ鯨」に写真を提供しており，今回は「魅惑の海洋生物」と題して写真展に展示している鯨やサンゴ，ウミガメの生態系について分かりやすく解説をした。

講演会の前半３０分では，鯨について触れ，奄美で観測できる時期や場所，ホエールウォッチングの利用者数の伸び，生態について語った。質問タイムを設けると，客席から積極的に手が上がり，鯨はどのようにして餌を取るのかなどの質問があった。

後半は，サンゴやウミガメの生態について触れたり，同氏が日々行っているサンゴ礁保全やウミガメ類の繁殖生態，鯨類に関する調査研究について取り組んでいることなどを語った。講演終了後には，来場者が興克樹氏に質問をする場面などがみられた。

④夏休み親子手作り教室～夏休みの想い出を作ろう～

日時：平成２８年８月２０日（土）１０：００～１１：００

場所：屋内イベント広場　参加者数：２９名

内容：　ネリヤカナヤフェスタの一環で「夏休み親子手作り教室」を開催した。今回はネリヤカナヤフェスタにちなんで，海を連想させる「ゴムを使った動力舟」や「貝殻とサンゴを使ったネックレス」を題材として参加を募集した。講師には，地元で地域の子供たちに手熟を教えている奄美手熟師会会長の泉幸二さんと同会メンバーの藤井菊美さんを招いた。

参加者には予め動力舟かネックレスか選択してもらい，当日はそれぞれ時間いっぱい好きな工作を楽しんでもらった。

動力舟の作成には，小刀を使って木を削る行程があり，普段刃物を使い慣れてない子供たちは，親に教えてもらいながら，木を削ったりヤスリをかけたりする場面などが見られた。

ネックレスの作成では，それぞれ好きなアクセサリーの材料を選んで，楽しそうに話しながら作成する場面が見られた。

それぞれ完成すると，近くの池で舟を走らせて楽しそうにはしゃぐ様子や，ネックレスをつけて友だちや親と一緒に写真を撮る場面などが見られた。

親子で協力しながら，１つのものを作成することにより，夏休みの親子の想い出が出来た。

（４）サマーコンサート

日時：平成２８年８月７日（日）１３：３０～１５：５０

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約１２０名

内容：　開催したサマーコンサートは，スタジオエフ代表の西桂吾ほか，ＤＯＮＮＡ，奄美カクテル，土岐宏大，森拓斗，ＫｉｔｔｅｎＢｌｕｅ，友香，ＲｏｗＨａｒｍｏｎｙの奄美大島・喜界島出身の８組のアーティストが出場し，コンサートを盛り上げた。

それぞれアーティストやダンサーは，ギター片手に素敵な歌を披露したり，パーカッションやキーボード演奏を交えて優雅に歌ったり，華麗にベリーダンスを披露したりと来場者を魅了した。

今回は単調な歌や楽器演奏だけではなく，新美南吉の作品「うた時計」をコンサートバージョン風にアレンジし，普段とは一風変わったミュージカル風に仕立てて「朗読歌劇」として披露した。

「うた時計」をアレンジした詩と出演者が朗読の合間に奏でる歌声や華麗なダンスが，さらに素敵な空間を演出し，来場者を終始虜にしていた。

（５）奄美パーク夏まつり～シマジマ（沖永良部島）だより～

日時：平成２８年８月１４日（日）１３：３０～１５：３０

場所：屋内イベント広場　入場者数：約３５０名

内容：　沖永良部島の伝統芸能を披露する「奄美パーク夏まつり～シマジマ（沖永良部島）だより～」を開催した。

今回は，沖永良部高校エイサー部のメンバーが主体となってステージを披露した。ステージは，エイサー部の「ハレルヤ」でスタート。次に沖永良部高校出身の安田洋幸さんの唄にあわせて「伝統エイサー」を披露すると，会場は一気に沖永良部島の雰囲気となった。

その後，琉球舞踊や正名ヤッコ踊り，島唄など次々とステージが繰り広げられ，エイサーでは，創作エイサーや空手部とのコラボ演出なども行われた。

会場には，沖永良部島出身の方々をはじめ，多くの人で賑わい，イベントの最後は会場も巻き込み「サイサイ節」で締めくくった。

また，会場内には「おきのえらぶ島観光協会」が当日限定で物産展も開催し，大盛況だった。沖永良部島の風を感じられるような，素晴らしいイベントとなった。

（７）フユウンメコンサート

日時：平成２８年１２月４日（日）１３：３０～１５：４５

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約２５０名

内容：　冬の折り目という意味で作物の収穫に感謝する「フユウンメ」の時期に合わせて，ダンスや合唱，バンド演奏などで構成した毎年恒例のイベントを開催した。

今回は，奄美高校吹奏楽部の吹奏楽器演奏や，Ｂ→Matonds☆ＤanceＳtudio，ダンススクールＣＯＲＥのヒップホップダンス，辻美里・辻竜生姉弟の島唄，奄美高校郷土芸能部の三味線・チヂン演奏での八月踊り，楠田莉子さんのポップス，安大智さんの昭和歌謡曲の独唱，松永大輔さんのクリスマスソング曲や即興ピアノ演奏など盛りだくさんの内容となった。

また，ダンスプログラムにはクリスマスにちなんだ曲が選曲されているなど，冬の折り目のイベントに相応しい内容となった。今回の出演者は，１０代中心の若いメンバーが多く，これから奄美を担う若い力も存分に感じることができるイベントとなった。

（８）初春唄あしび

日時：平成２９年１月３日（火）１３：３０～１５：４５

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約２００名

内容：　奄美しま唄グループゆらゆい代表の和田孝之さんの企画による新春恒例の「初春唄あしび」を開催した。司会は和田さんが務め，観客を飽きさせないよう第１部が島唄，第２部が日本舞踊・歌謡ショー，第３部が島唄というプログラム構成であった。

第１部の島唄は，昇喜代子さんと昇和美さんによる祝い唄「朝顔節」からスタートし，奄美しま唄グループゆらゆいメンバーによるカサン唄とヒギャ唄の競演に会場は聞き入っている様子だった。

第２部の日本舞踊，琉球舞踊，歌謡ショーでは，桜輝会奄美本部の桜輝綾之祥さんが祝舞「清海波」を披露し，艶やかな舞に会場も釘づけだった。

また，歌謡ショーでは，ベッチェ生元さん，作まゆみさん，久志哲美さん，岩田幸喜さん，和田孝之さんらが自慢ののどを披露した。

第３部では，再び島唄が披露され，昇喜代子さんと昇和美さんによる「俊良主節」から始まり，最後はワイド節や六調を出演者と観客が三味線やチヂンの音に合わせて，一緒に踊り，賑やかな締めとなった。

新年最初のイベント「初春唄あしび」は，新春にふさわしい内容で，地域住民や帰省客，島唄・新民謡ファンが島内外からたくさん詰めかけ，盛会に終えた。

（９）奄美パーク新春寄席

①奄美パーク出張新春寄席（喜界島）

日時：平成２９年１月７日（土）１８：３０～２０：３０

場所：喜界町休養村管理センター大研修室　　入場者数：７６名

内容：　今年から奄美パーク主催で奄美群島各離島でも開催することとなった，出張新春寄席を喜界島の喜界町休養村管理センターにて開催した。今年の出演者は，奄美パークでは６年目の三遊亭鬼丸さん（真打）を始め，春風亭一蔵さん（二つ目），ペペ桜井さん（ギター漫談）の３名で行った。

来場者は，慣れない落語に始めは肩に力が入っていたが，一蔵さんがまくらで緊張をほぐすと，その後の落語「子ほめ」で多くの笑いを誘った。続いて，三遊

亭鬼丸さんが登場し，落語「親子酒」を披露すると，来場者は酒の話にうなずきながらも会場は笑いにつつまれた。中入り後は，ギター漫談のペペ桜井さんが登場。ギターを弾きながら行うテンポのいい漫談に会場は一体となり，最後に再度登場した三遊亭鬼丸さんが落語「ねずみ」を披露し，喜界町の人たちに落語の笑いを届けた。

演目終了後には，三遊亭鬼丸さんの手ぬぐいや扇子をプレゼントする抽選会を開催した。

来場者からは「次も是非，喜界島でやってほしい。おもしろかった。」などの声があり，新春らしいイベントとなった。

②奄美パーク新春寄席

日時：平成２９年１月８日（日）１３：３０～１５：３０

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約３６０名

内容：　毎年恒例となった奄美パークの新春寄席を１月８日（日）屋内イベント広場にて開催した。今年の出演者，奄美パークで６年連続出演となる三遊亭鬼丸さん（真打）を始め，春風亭一蔵さん（二つ目），ペペ桜井さん（ギター漫談）の３名で行った。

来場者の中には，毎年行われる寄席を楽しみにしている方も多くおり，喜界公演と同様に最初は，一蔵さんがまくらで場を温めながら，その後の落語「天狗裁き」を披露した。続いて，三遊亭鬼丸さんが登場し，落語「らくだ」を披露すると，会場は大きな笑いにつつまれた。中入り後は，ギター漫談のペペ桜井さんが登場。ギターを弾きながら行うテンポのいい漫談に会場は一体となり，喜界島では披露しなかったハーモニカを使ったネタも披露した。最後に再度登場した三遊亭鬼丸さんが落語「茶金」を披露し，トリを取った。

演目終了後には，三遊亭鬼丸さんの手ぬぐいや扇子をプレゼントする抽選会を開催した。

（１０）奄美パーク春まつり～サンガツサンチ～

日時：平成２９年３月５日（日）１１：００～１５：３０

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約３００名

内容：　旧暦の３月３日の桃の節句にちなんで「奄美パーク春まつり～サンガツサンチ～」を開催した。ダンス関係２団体とシマ唄を中心に唄う若手唄者５名の女性中心の出演者が軽快なリズムに乗った華麗なダンスや美しく伸びやかな歌声などを披露し来場者を魅了した。

　イベント冒頭では，この春高校を卒業した４名の出演者（楠田莉子さん・界眞子さん・森永あすかさん・平島亜衣里さん）に，園長から感謝状が渡された。また，４名のシマ唄の後輩である辻美里さんからは，花束が手渡された。卒業生４名はサプライズの激励に応え，急きょ「朝花節」を披露した。

　シマ唄では，５名の唄者がこれまで奄美パークのステージイベントに出演した思い出などを語り，「嘉徳なべ加那節」や「らんかん橋節」「よいすら節」「かんつめ節」などを唄い会場を魅了した。また，楠田莉子さんは，シマ唄のほかに自ら作詞作曲した歌も披露した。

　ダンスでは，リッコモダンジャズバレエスタジオとB→Matonds☆Dance Studio のみなさんが艶やかな衣装で，軽快なリズムでジャズダンスやヒップホップ，タップダンスを披露し来場者を楽しませてくれた。

　また，「ひなまつりバザー」では，「味の郷かさり」さんと「奄旨海房 魚匠」さんがブースを設け，奄美特産の加工品を販売し，来場者は，ステージとともにバザーも楽しんでいた。

２　奄美の郷ライブステージ

（１）ゴールデンウィークしまうたミニライブ

日時：平成２８年５月３日（火・祝）・４日（水・祝）

１部　１３：３０～１４：００

２部　１５：３０～１６：００

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約４９０名（２日間の合計）

内容：　ゴールデンウィークは島内外の家族連れでにぎわうことから，より多くの方に奄美の文化に触れていただけるよう，５月３日・４日の２日間に渡り「ゴールデンウィークしまうたミニライブ」を開催した。開催にあたっては，１日２回，東京・大阪便の飛行機の離発着時刻に合せて設定をした。

出演者には，島外の方にも分かりやすいように，島唄の意味や由来などの解説を交えながら，ステージを披露していただいた。

観光客からは，「生演奏楽しかったです」，「島文化を見ることが出来て良かったです」，島内の来園者からは「歌詞の説明もあり聴きやすかった」などの感想をいただいた。

プログラム最後の六調では，出演者と一緒に観光客が踊る場面なども見られ，賑やかな締めとなった。また，出演者が大島紬を着用し紬の魅力について触れたことにより，島の特産情報の発信にも寄与することができた。

（２）初夏の風にのせて伝えたい七色の心

日時：平成２８年５月２９日（日）１３：３０～１６：００

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約３２０名

内容：　奄美芸能七色会の代表米倉キミエさんの呼びかけで，集結した地元アーティスト４団体と６名による「初夏の風にのせて伝えたい七色の心」を開催した。奄美芸能七色会は，奄美群島各地で，歌や踊りなどの芸能活動を行うボランティアグループ。

ステージの司会は，米倉キミエさんが務めた。プログラムは，観客が飽きないよう，島唄，奄美新民謡，歌謡曲，童謡の歌部門とフラダンス，日本舞踊，創作舞踊，琉球舞踊の踊り部門を交互に組み合わせた構成となっていた。

ステージは日置幸男さん，松元絹代さんによる島唄「諸鈍長浜節」で開幕。迫力ある島唄で会場を沸かせた。歌部門では，出演者が歌うと曲に合わせて手拍子をする場面や，出演者のファンが出演者に向けてエールを送る場面などが見られ，ステージと会場が一体となった。踊り部門ではフラカオスタジオがその美しいダンスで会場を魅了し，川口眞哉さんの創作舞踊では，その一風変わった装いに会場からは驚きの声が上がった。また，歌や踊りの披露だけではなく，勝喜久代さんによるパフォーマンス，芸能人のモノマネも披露された。

今回，特別ゲストとして現在女優として活動されている佐藤寛子さんが出演した。童謡「椰子の実」を唄い，その透き通るような歌声に会場は静かに聴き入っていた。伴奏は地元で有名なアーティスト，エラブチ剛さんが務めた。プログラム終盤では，日置幸男さんと松元絹代さんによる「イトゥ」と「六調」が披露され，賑やかな音楽にステージと一緒になって，観客が踊る姿などが見られた。

出演者は次のとおり。奄美芸能七色会，藤扇流龍郷教室，奄美新民謡龍郷自主教室，フラカオスタジオ，島ひとみ，佐藤寛子，エラブチ剛，日置幸男，松元絹代，勝喜久代。

（３）奄美パークキッズダンスフェスタ２０１６

日時：平成２８年６月１９日（日）１３：３０～１４：４５

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約２６０名

内容：　応募のあった４組（Hula-みんご，Halau O Lehua O Karani 奄美大島校，ダンススクール CORE，AMO DANCE SCHOOL）の子どもたちのダンスを披露する「奄美パークキッズダンスフェスタ２０１６」を開催した。

出演者は，未就学児から小学生，中学生が主体で保護者やダンス教室の先生も共演し，約６０名が参加した。

今回のプログラムは，「Hula-みんご」によるフラダンスから始まり，ストリートダンスなど多彩なダンスで会場からも手拍子が起きるなどステージと会場が一体となり盛り上がった。プログラムの最後は，奄美の由緒ある踊り，六調で出演した子どもたちや会場へ

来た観客も一緒になって踊りフィナーレを飾った。

出演した代表者からは「このように，ステージで発表する場を提供していただいて，子どもたちも喜んでいます。ありがとうございました。」などの感想を得た。

（４）夏休みしまうたミニライブ

日時：平成２８年７月３１日（日）・８月２１日（日）・２８日（日）
いずれも１３：３０～１４：１０

場所：屋内イベント広場　入場者数：約３２０名（３日間の合計）

内容：　夏休みは島内外の家族連れや観光客で賑わうことから，より多くの方に奄美の文化に触れていただけるよう「夏休みしまうたミニライブ」を開催した。

今回は，各地で開催されている島唄大会で優勝者を数多く輩出している「日本民謡協会奄美連合委員会山ゆり会」の方々に出演していただいた。

同会メンバーの村山美智子氏が３日間司会を務め，曲の意味や由来などの解説を交えながら進行を行った。ライブ最初の曲は，３日間とも祝宴の座開きの定番曲「朝花節」から始まった。

出演者が島唄を唄うと客席では島唄に合わせて手拍子をしたり，目を閉じて静かに聴き入っていたりと各々島唄の世界に引き込まれていた。ライブの最後には，イトゥや六調を出演者全員で唄ったり踊ったりし，賑やかな締めとなった。

イベントの予定が無い日の７・８月の日曜日に「夏休みしまうたミニライブ」を開催したことで，夏休みの日曜日は奄美パークで毎回イベントを開催しているというイメージ付となり，集客数の向上を図ることができた。

（５）月に焦がれて

日時：平成２８年９月１１日（日）１３：３０～１５：３０

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約２２０名

内容：　奄美の新民謡，歌謡を中心とした「月に焦がれて」を開催した。当日は，奄美群島各地で様々なイベントや行事が開催されたが，毎年楽しみにしているリピーター等，多数の来場者が訪れた。

イベントでは，奄美出身，奄美在住の９名の歌手が，

それぞれオリジナル曲やカバー曲を披露し会場を盛り上げた。また，来場者も出演者の歌に合わせて歌ったり手拍子をしたりと，一緒になって会場を盛り上げてくれた。プログラムの内容は，奄美歌謡と奄美新民謡で構成されており，特に年配の方が楽しめる内容であった。プログラムの最後は，「島のブルース」に合わせて出演者と来場者が一緒に踊り，盛大にイベントを締めくくった。

（６）ゆらう（瀬戸内町）

日時：平成２８年１１月６日（日）１３：３０～１５：３０

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約２４０名

内容：　瀬戸内町の方々による島唄などを披露する「奄美の郷ライブステージ　ゆらう（瀬戸内町）」を開催した。

今回は，瀬戸内町内で精力的に活動しているグループを中心に吹奏楽や島唄などを披露した。ステージは，吹奏楽団「かじゅまる」の「キャンディーズメドレー」でスタート。昔懐かしいメロディーに会場は演奏に引き込まれていった。次に，瀬戸内町にある古仁屋高校，古仁屋中学校の生徒によるフラダンスが披露され，その後は島唄や手話コーラスと次々にステージを盛り上げた。

最後には瀬戸内バント（シマバンド）のローガンズがオリジナル曲を含む４曲を披露。イベントの最後は，六調で会場を巻き込み，盛大に締めくくった。

瀬戸内町には多くの伝統芸能もあり，今回，伝統芸能については実際に瀬戸内町に来て見て感じてもらいたいという意向もあり披露はなかったが，イベントをとおして瀬戸内町の魅力を伝えるきっかけとなった。

（７）奄美パークパフォーマンスバトル２０１７

日時：平成２９年２月１２日（日）１３：３０～１６：２０

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約４５０名

内容：　パフォーマーの皆様が日頃の練習の成果を発表する場として，また幅広い年代の方々にパフォーマンスを楽しんでいただくことを目的として，毎年恒例の「奄美パークパフォーマンスバトル 2017」を開催した。島内外問わず様々なジャンルのパフォーマーを公募

し，今年は１５団体・約１５０名が優勝・準優勝を争った。優勝・準優勝は，得票数により決定。投票方法は各出場者が３票を持ち，自身以外の出場者に投票をするシステムであった。今年で４回目の開催となり，地元住民にイベントの認知度が高まったためか，募集締切日より２週間早く定員に達した。

出場者のジャンルは，島唄や詩吟，ハーモニカ演奏，手品，フラダンス，ヒップホップダンスと多種多様で，会場の人々は様々なジャンルのステージを楽しんでいる様子だった。また，会場が出場者のダンスに合せて手拍子をしたり，パフォーマンスに驚きの歓声を上げたりする場面も見られた。

すべての出場者の演目終了後，昨年度の優勝者「Sei-chan」が映画「座頭市」の曲「Festivo」に合わせてアクロバットや体操を披露すると，会場はその迫力に驚き魅入っている様子だった。

今年のパフォーマンスバトルの優勝は，喜界町から来た小学６年生の「西原ゆな」さんが獲得した。西原ゆなさんは，幼稚園の頃からフラダンスを習っており，ステージでは小学６年生とは思えないしなやかで堂々としたフラダンスで会場の人々を魅了していた。

続いて準優勝を獲得したのは，今年初出場の「Mix Sense」であった。Mix Sense は，社会人６名のチームで出場。今回は，ヒップホップダンスを披露し，息がぴったりあったダンスや面白いパフォーマンスで会場を魅了した。

最後に，今年度奄美パークが開園１５周年を迎えたことを記念し設けた「奄美パーク開園１５周年記念園長特別賞」を喜界町から来た「アヌエヌエ喜界・フラ」が受賞した。アヌエヌエ喜界・フラは，登場から退場まで美しいフラダンスを披露し，その美しいフラに会場は虜になっている様子だった。

その他の出場者（ジャンル）は，成瀬茉倫（島唄），リコフラダンス教室（フラダンス），童子八月踊り研究会（踊り），栄菜々子（フラダンス），森田佐喜雄（ハーモニカ演奏），奄美フォークダンスクラブ（ダンス），B→Matonds☆DanceStudio（ダンス），瀬戸内町ひぎゃ節会（島唄），トゥルーフレンズ（社交ダンス），修武台奄美吟詠会（詩吟），クラウンシバッチ（手品）。

３　文化講演会

「奄美パーク開園１５周年記念文化講演会」

日時：平成２８年１１月２０日（日）１３：３０～１５：００

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約８００名

内容：　奄美パーク開園１５周年を記念し，奄美大島出身の著名な方をお招きし，子どもから大人まで幅広い年齢を対象とした方に楽しんでいただくとともに，人々の交流の場となることを目的として文化講演会を開催した。

今回は，奄美市笠利町出身で日本レスリング協会強化本部長の栄和人氏や，リオデジャネイロオリンピック女子レスリング５３kg級銀メダリストの吉田沙保里選手，同４８kg級金メダリスト登坂絵莉選手，同６９kg級金メダリスト土性沙羅選手をお迎えし，地元のラジオ局ディウェーブの丸田氏が司会進行を務め，トークショー形式での講演会であった。

栄氏からは，奄美にいた子どもの頃の話や指導者としての在り方などの話を伺えたほか，３選手からは目標や夢を持つ大切さなどの話を聞くことができた。

また，吉田選手はリオ五輪など五輪４大会，登坂選手，土性選手がリオ五輪で獲得したメダルを会場に披露した後，東京オリンピックに向けた抱負などを語り，子ども達は目を輝かせて聞き入った。

栄氏と３選手のユーモアを交えた掛け合いや客席との質疑応答などもあり，終始感動と笑いの絶えない講演会となった。

４　わきゃステージ in パーク事業

（１）第８弾　島んちゅ会でぃ～まぁじんま（主催：島んちゅ会）

日時：平成２８年６月５日（日）１３：３０～１５：４５

場所：屋内イベント広場　入場者数：約２３０名

内容：　「島んちゅ会」主催の「第８弾!! 島んちゅ会 でぃ～まぁじんま!!」が開催された。「島んちゅ会でぃ～まぁじんま」は，今回で８回目を迎えたが，３年ぶりのステージとなった。

イベントでは，約２３０名の来場者が種々の演目を堪能していた。

内容としては，まず福山幸司さん平久美さんによる島唄「長朝花節」でイベントが始まり，舞踊や歌謡曲，子ども達による島唄で会場を盛り上げた。

また，地元笠利の同窓生で結成したオオクィクィバンドに平久美さんが加わり，アレンジ曲をギターと三線に合わせて歌いイベントに華を添えた。

最後にワイド節と稲すり節，六調を福山幸司さん，平久美さんの三線と囃しに合わせて出演者と来場者が一緒になって踊り，盛り上がりを見せた。

（２）島唄あしび（主催：あやまる会・県教職員共助会）

日時：平成２８年７月２４日（日）１０：００～１２：５５

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約２８０名

内容：　「あやまる会・鹿児島県教職員共助会」主催の「島唄あしび」が盛大に開催された。

毎夏恒例の当イベントは，島唄を中心に，島口，新体操，八月踊りなど多彩なプログラムで構成され来場者を魅了した。特に島唄の部では，過去のわらべシマ唄大会や，他の島唄大会で入賞した子ども達が多数出場し，来場者も聞き入っていた。

他にも，ＡＳＡ大島ジュニア新体操クラブの子ども達による地元の島唄に合わせた華麗な新体操や，當田嶺男さん・薗博明さんによる滑稽な題材での島口談話，笠利町須野集落の八月踊りがイベントを彩ってくれた。最後は出演者と来場者が一体となって六調を踊り，イベントを盛大に締めくくってくれた。

イベントでは，約２８０名の出演者や来場者が奄美パークを訪れ終始賑わっていた。

（３）鼓祭（主催：奄美太鼓連盟）

日時：平成２８年１１月５日（土）１３：３０～１５：４５

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約３００名

内容：　「奄美太鼓連盟」主催の奄美太鼓祭り「鼓祭」が開催された。

　今回の大会は５年ぶりの開催となり，久しぶりに太鼓祭りを見ようと，大勢の来園者で賑わった。

　イベントは，大笠利わらべ島唄クラブの「朝花節」で幕を開け，喜界島うるまエイサーや瀬戸内のホノホシ太鼓，徳之島の闘牛太鼓，与論のゆんぬエイサー笠利の道の島太鼓など，各島々それぞれの特色ある太鼓演奏で観衆を魅了した。

　最後に，与論など南部の太鼓演奏と奄美大島など北部の太鼓演奏で六調を踊り，太鼓祭りを盛大に締めくくった。

（４）ホースセラピー講演会（主催：奄美共生園）

日時：平成２８年１１月１３日(日)１３：３０～１６：００

場所：屋内イベント広場及び多目的広場　入場者数：約８０名

内容：　一般社団法人奄美雇用福祉支援協会「奄美共生園，共生園・のごろ」主催の「ホースセラピー講演会」が開催された。

　今回は，局博一氏（東京大学名誉教授）による講演会で「ホースセラピーの現状」と題して行われた。人とウマの歴史的なかかわりから，現在でも人の暮らしに密接にかかわっていることなどが話され，ホースセラピーにはストレスや苦痛の緩和など，いろいろな効果があるとした内容の講演で，会場に訪れた人たちは熱心に話を聴いていた。

　また，多目的広場ではあやまる牧場のミニチュアホースとのふれあい体験も行われ，子どもたちを中心にウマを散歩させたりして楽しんだ。

（５）アマービレ吹奏楽団スプリングコンサート（主催：アマービレ吹奏楽団）

日時：平成２９年２月１９日（日）１４：００～１５：３０

場所：屋内イベント広場　　入場者数：約１２０名

内容：　アマービレ吹奏楽団主催の「スプリングコンサート」が開催された。

　アマービレ吹奏楽団は，毎年この時期にスプリングコンサートを開催しており，昨年に続いて今年も奄美パークで開催。ステージは，「１部ポップスステージ」と「アンサンブルステージ」，「２部ポップスステージ」の３つのステージにわかれており，懐かしい楽曲や最近の楽曲，演歌を演奏した。また，随所に春を感じさせる楽曲を入れるなど，スプリングコンサートに相応しい演奏会となった。

　会場には，演奏される曲を口ずさむ人や体を揺らしリズムを取る人など，それぞれ演奏（コンサート）を楽しんでいた。

５　その他の自主事業及び共催事業

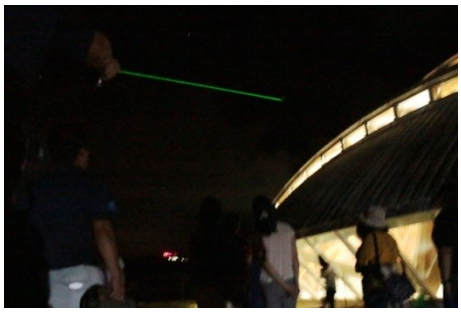
（１）奄美パーク開園１５周年記念
感じよう！奄美の自然！！～世界自然遺産登録に向けて～

日時：平成２８年８月２４日(水)１９：００～２０：５０

場所：屋内イベント広場・多目的広場　入場者数：３３名

内容：　奄美・琉球世界自然遺産登録を見据え「感じよう！奄美の自然！！」と題して，夜イベントを開催した。

　イベント前半は，奄美野生生物保護センターの職員による希少野生生物の生態についての解説やカエルや鳥の鳴き声クイズなどを行い，来館者はクイズに参加しながら生態について学んでいった。また，希少野生生物の剥製も展示し，実際に触れてもらい生物への関心を深めていった。



　イベント後半は，県立奄美少年自然の家の職員による解説で，夏の夜空を中心に学んだ。まずは，スクリーンを使って星座が出来たと言われる神話などで星への関心を深め，その後は実際に外に出て夜空を観察した。また，天体望遠鏡を使って，土星も観測するなど，自然を肌で感じることができた。

　参加者は，各所の職員に積極的に質問するなどしている姿が見られた。

（２）奄美パーク開園１５周年記念　バブルサッカー大会

日時：平成２８年１０月２３日(日)９：００～１５：００

場所：多目的広場　参加者数：１６１名

内容：　奄美パーク開園１５周年を記念し，これまで以上に奄美パークが地元の人に利用していただける施設になるように，奄美大島で初の開催となるバブルサッカー大会を多目的広場で開催した。

　大会には，子どもの部１０チーム，一般の部１２チームの総勢約１６０人が参加した。

　序盤，参加者はバブルボールの扱いや普段と違う視界，体の使い方に戸惑っている様子もうかがえたが，時間が経つにつれ徐々に慣れてくると積極的に相手にぶつかりながらボールを追いかけるなど，熱戦が繰り広げられた。

　また，思うようにボールを蹴ることができなかったり，ぶつかり合って転倒しなかなか起き上がれないな

ど，いくつもの珍プレーに会場では終始笑い声や歓声が上がっていた。

参加者からは，「普段のサッカーと違って，思い切り相手にぶつかって，転んでも痛くなく，とても楽しかった。」，「バブルサッカーでは，普通のサッカーが上手なチームが必ず勝つとは限らないのでとても楽しい。」などの感想を得た。

普段は島唄やダンス，講演会など屋内のステージで行うイベントが多い奄美パークで，今回のような屋外での賑やかなスポーツイベントは珍しく，参加者，主催者ともに印象に残る記念イベントとなった。

（３） 文化の日イベント

日時：平成２８年１１月３日（木・祝）

① 昔あそび体験　午前の部１０：００～１２：００
　　午後の部１３：３０～１５：３０

② けんむんクイズラリー　終日

③ 田中一村ちびっこ鑑賞会　１１：００～１２：００

場所：①屋内イベント広場ほか　②奄美の郷　③田中一村記念美術館

入場者（参加）数：①３００名　②１３名　③７名

内容：　文化の日は有料施設の観覧料を無料としており，この機会に奄美パークをより身近に感じていただくことを目的に文化の日イベントを開催した。

奄美の郷の屋内イベント広場では，「昔あそび体験会」を午前の部・午後の部と２部構成で行い，来場者はソテツの葉を使った「一輪挿し」，アダンの葉を使った「手裏剣」，小さな板を張り合わせて作った「笛」，「竹トンボ」，「ナリ細工作り」，「神の目作り」を楽しんだ。

講師は，奄美パーク職員と地元で地域の子どもたちに手熟を披露している奄美手熟師会の方々が務めた。参加者は「子どもと一緒に夢中になって作業に取り組んだ。家でも作ってみたい」と語り，始終楽しそうにしていた。大人と子どもが一緒に楽しめる内容となっており，幅広い年齢層の方が時間いっぱい物作りを楽しんだ。

田中一村記念美術館では，小・中学生を対象とした「田中一村ちびっ子鑑賞会」を開催した。学芸専門員が美術館の役割や施設の機能，普段見ることができな

い美術館の館長室，田中一村の作品などを紹介した。参加者は，事務所，学芸室などを見学したあと，館長室で一村の生涯や奄美の自然，動植物について掲示物を見ながら学んだ。

その後，実際の一村の作品を前にどんなものが描かれているか，どんな感じがするかなどを話し合った。子どもたちは，作品に描かれているものを細かく観察したり，感じたことをつぶやいたりしながら鑑賞活動を行った。この鑑賞会を通じて，美術館や作品を身近に感じてもらうことができた。

（４）第１０回奄美パーク子どもクリスマス会

日時：平成２８年１２月１８日（日）
　　午前の部　１０：００～１２：００
　　午後の部　１４：００～１６：００

場所：屋内イベント広場

入場者数：午前の部　約１，８００名
　　午後の部　約１，６００名

内容：　冬休みやクリスマス間近のこの時期に子どもたちにクリスマスを楽しんでもらうために「第１０回奄美パーク子どもクリスマス会」を開催した。

まず最初にステージに登場したのは，地元で活動しているダンスユニット「ヂルドレン」で，浦島太郎を題材としたダンスミュージカルを披露した。乙姫が３人の浦島太郎に玉手箱を授け，受け取った浦島太郎たちが玉手箱を開けるとサンタクロースになってしまうという演出に会場からは，笑いや驚きの声が上がっていた。

続いて登場したのは，奄美看護福祉専門学校こども・かいご福祉学科の生徒。子どもたちに人気のアニメソングに合わせて，会場の子どもたちと一緒にダンスを踊ったり，「ジングルベル」の曲に合わせて子どもたちと一緒にクリスマスツリーを完成させたりと会場とステージが一体となった楽しいレクリエーションの時間となった。

最後に登場したのは，大阪で大道芸活動をしている「大道芸人 SOLA」であった。大道芸人 SOLA がナイフを使ったジャグリングやピラミッド状に組み上げたイスに逆立ちをすると，会場からは拍手や驚きの歓声

が上がり，会場の熱気は最高潮に達した。

ステージ後の大抽選会は，今年度も奄美大島内の企業から多くの景品を提供頂いた。司会が抽選番号を読み上げると，会場は一喜一憂し，今か今かと楽しみにしている子ども達が目を輝かせて抽選券を握っている場面が印象的であった。なお，イベントの最後には抽選に外れた子どもたち全員にお菓子を配布した。始終大勢の家族連れで賑わい賑やかな１日であった。

（５）けんむんクイズラリー

期間：通年　場所：奄美の郷内

内容：　奄美の郷内１８箇所にクイズを掲示し，展示物の解説などをヒントにクイズを解いて周り，ゲーム感覚で学べる「けんむんクイズラリー」を実施した。

室内で実施するクイズラリーは，雨の日や日差しの強い夏，風の冷たい冬でも快適に楽しむことができる。また，無料ゾーンにもクイズを配置することにより，より多くの来園者が参加できるようにした。クイズを解き終わった参加者には，解答用紙と参加賞のオリジナルけんむんシールをプレゼントした。また，田中一村記念美術館への誘客につなげるため，美術館の受付で追加のシールが貰える特典を付けた。今年からけんむんシールの種類を増やしたことで，けんむんシール欲しさに何度もクイズに挑戦する地元の子供たちの姿も見られた。

子どもだけでなく大人も参加する姿が多く見られ，クイズラリーを通して，奄美への関心を高めるきっかけ作りにつなげることができた。

第４　田中一村記念美術館企画事業

１　奄美関連作家展及び招待作家展

（１）大島紬の伝統・創作デザイン展

期間：平成２８年３月２７日（日）～４月１７日（日）

場所：企画展示室　期間中の入館者数：２，０５２名

内容：　奄美の大島紬や，大島紬を活用した衣料など郷土の素材やアイデアを生かした作品に触れる機会を提供するために，本場奄美大島紬協同組合の伝統大島紬と鹿児島県工業技術センター奄美市駐在による創作デザイン等を展示した。

展示内容には，大島紬絣文様や制作工程に関する資料等もあり，奄美の大島紬の魅力を多くの方に紹介する機会となった。

また開催初日の３月２７日（日）には，鹿児島県工業技術センター奄美市駐在の徳永嘉美氏によるフロアトークを行った。

島内外から多くの来館者があり「江戸，明治，大正と昔の紬を見る事が出来て感激しました。とても貴重なものが残っていてびっくりしました。」，「初めて見る紬や工程など詳しくわかりやすく展示されていて楽しかったです。」，「大島紬で華やかなイメージを受けるものが多かったのにびっくり。（展示してある）ストールが欲しいと思いました」，「色々新しい試みも大事だと感じました。今後もこのような企画があれば良いと思います。」等の感想を得た。

（２）琉球弧の祈り～前畑省三「神女誕生」シリーズから～

期間：平成２８年５月１日（日）～５月２２日（日）

場所：企画展示室　期間中の入館者数：２，４１４名

内容：　南西諸島の自然や文化を取材・調査して独自の世界観を絵画で表現した画家，前畑省三氏（鹿児島女子短期大学名誉教授・独立美術協会会員）の作品展『琉球弧の祈り～前畑省三「神女誕生」シリーズから～』を開催した。

前畑氏の作品には，奄美大島の平瀬マンカイをモチーフとした作品もあり，南西諸島の文化を改めて考える機会となった。今回は「神女誕生」シリーズから１

２点「いのちの誕生」シリーズから１点の計１３点の大作と，スケッチブックやドローイングも展示した。

また，５月１５日（日）にはフロアトークが行われ，オープニングでは岬 眞晃氏による三味線と島唄の演奏も行われた。前畑氏は，制作にあたっての取材の様子や，奄美や沖縄のノロや伝統行事についての見解を語った。

島内外から多くの来館者があり，「赤の世界が眼前に広がり，何とも言えない不思議な感じがしました。」，「ドローイングやスケッチの原物を拝見することができ大変勉強になりました。」，「独特な世界がとても魅力的で，ひきこまれていくような気がしました。」，「平瀬マンカイを題材にした作品は，私には想像もつかず魂の叫びを感じました。」等の感想を得た。

（３）少女マンガパワー展ｉｎ奄美

期間：平成２８年７月１６日（土）～８月７日（日）

場所：企画展示室　期間中の入館者数：２，６２４名

内容：　カリフォルニア州立大学チコ校ターナー版画美術館が所蔵している版画２６点と，少女マンガの原画や複製画４０点とを比較しながら展示し，日本の少女マンガの広がりと奥深さに浸る展示会となった。

７月１７日（日）は，オープニングイベントとして，ＮＰＯ法人アマミーナ理事長　徳 雅美氏によるギャラリートークと，名瀬公民館マンガ講座講師の福島憲一郎氏によるマンガ講座＆ワークショップが行われた。参加者は，日本の少女マンガの世界的な位置づけを理解したり，マンガを描くときのコツの一つとして「目の描き方」について体験したりした。１２０名を超える参加者を得，それぞれにマンガについて理解を深めた。

８月６日（土）にはクロージングセレモニーとして，４人の研究者による漫画シンポジウム「海外におけるマンガの受容と広がりにおいて」名瀬公民館コーラス講座講師 岡山和子先生と有志の皆さんによる「コーラス de アニソンタイム」の披露。萩尾望都ステージトークでは，会場からもマンガと絵画の関係，萩尾氏の今後の活動等についての質疑があり，２００名の参加者が有意義な時間を過ごした。

来館者からは「昔読んでいた頃のことを久しぶりに思い出し，懐かしく楽しい時間でした。」，「萩尾先生が大好きで来ました。作品に見とれてしまい，時間を忘れてしまいました。」，「比較という見方が新鮮でした。」，「漫画家の先生の原画を見る機会はめったにないので，とても貴重でした。」等の感想を得た。

（４）曽令富・曽勤・曽黎父娘三人展～奄美の自然を描く～

期間：平成２８年１２月２５日（日）～平成２９年１月８日（日）

①フロアトーク

日時：平成２８年１２月２５日（日）１３：３０～１４：００

場所：企画展示室　　入場者数：約１００名

内容：　奄美をテーマにした水墨画を鑑賞することで地域の魅力を再発見していただくことを目的に開催されている「曽令富・曽勤・曽黎父娘三人展～奄美の自然を描く～」の開会を記念して作家によるフロアトーク（作品解説）を行った。

開会にあたり，宮崎緑館長が「中国はかつてシルクロードを通じて壮大な交流をしていた。今回の展示会はそのシルクロードの現代版のよう」などと挨拶した。

続いて，曽令富氏は奄美を題材に描いた水墨画の新作を中心に，曽勤氏はサガリバナ，トケイソウなど奄美で出会った植物を大きく描いた作品を中心に，曽黎氏は得意の蝶と奄美を融合させた作品を中心に解説を加えた。会場に集まった参加者は描いたときの気持ちや技法の解説に頷きながら聴き入り，理解を深めることができた。

②オープニングイベント（ライブペインティング，水墨画体験）

日時：平成２８年１２月２５日（日）１４：１０～１６：００

場所：屋内イベント広場

入場者数：１６６名（ライブペインティング１４０名，水墨画体験２６名）

内容：　「曽令富・曽勤・曽黎父娘三人展～奄美の自然を描く～」のオープニングイベントとして，ライブペインティングや水墨画体験を開催した。

ライブペインティングでは，曽令富・曽勤・曽黎親子が描く縦１８０ｃｍ，横６００ｃｍの飛天図の天女の絵を制作し，それに合わせ奄美の島唄の第一人者，築地俊造氏が島唄の演奏を行った。会場の参加者は，

真っ白な画面が天女や蝶などで彩られ，築地俊造氏が奄美の羽衣伝説の唄を合わせる様子を興味深く鑑賞した。最後は六調も演奏され会場の参加者は奄美のよさを体感した。

　続いて行われた水墨画体験では，幼児から大人までの多くの参加者が指導助言を受けながら，竹とパンダの絵を楽しく描いた。笑顔で喜びを表現する参加者が多く芸術の素晴らしさを感じとっていた。

③作品展示

日時：平成２８年１２月２５日（日）～平成２９年１月８日（日）

場所：企画展示室　期間中の入場者数：１，６４９名

内容：　水墨画の抒情詩人といわれる曽令富氏と，娘の曽勤氏，曽黎氏による奄美の作品を中心とした『曽令富・曽勤・曽黎父娘三人展－奄美の自然を描く－』を開催した。３人の画家は，それぞれに岩絵の具を使った日本画や水墨を基調とする中国画，さらに日本画の岩絵の具と中国の水墨を融合させた画風等で，奄美をテーマにした３７点の作品を展示した。

　また，初日の１２月２５日（日）には企画展示室にてフロアトークが行われ，奄美パークイベント広場では築地俊造氏との即興によるライブペインティングや水墨画無料体験等が行われた。

　島内外から多くの来館者があり，「普段見慣れた奄美と違い，水墨の力強さが感じられました。」，「父娘三人三様の奄美大島の描き方，興味深かったです。」，「実際に描かれた作者の方に丁寧に説明していただき，より深く感動することが出来ました。」，「一村さんを想い出しました。子どもの頃によくお見かけしたお姿に懐かしい思いがいたしました。」等の感想を得，奄美の魅力を再発見する機会となった。

（５）前田康裕まんがイラスト展～教室の学びを拓く～

期間：平成２９年２月２５日（土）～３月１２日（日）

場所：企画展示室　期間中の入館者数：１，８８２名

内容：　教育に関わる諸問題の解決，指導の方向性をイラストやまんがという表現方法で提案してきた前田康裕氏による作品展，『前田康裕まんがイラスト展～教室の学びを拓く～』を開催した。日本中の教室で活用さ

れている前田康裕氏の描くイラストや，学校や教育に関係するまんが等の作品，前田氏のイラストが描かれたかるたやカード，パンフレット等６９点を展示した。

　また，初日の２月２５日（土）には企画展示室にてフロアトークが行われ，約５０名の参加者を前に，前田氏は学校教育等の話を交えながら作品が出来上がるまでの経緯やまんがやイラストの表現の特徴，色や形について等，その面白さについて解説した。その後，場所を奄美パーク　レクチャールームに移して教育講演会が行われた。教育講演会には，奄美群島内から学校関係者を中心に２６名の参加があった。前田氏は，教師の成長，協働の学び，新しい教育の課題等について，まんがやイラストも用いながら，分かりやすく解説を行った。参加者は，時折出される前田氏からの課題について，周りの参加者と意見を交わしながら学びを深めていた。

　展覧会には島内外から多くの来場者があり，「どこかで見たことのあるイラストで懐かしい感じがした。」，「こんな先生に学びたかった。現代の子どもたちは恵まれていると思う。」，「大学教員を目指しています。教育面でも役に立つマンガでしたので，購入したいと思います。」，「色々な教育関係の書籍に前田先生のイラストが有り，興味を持って来館しました。少しずつでも自分の授業が改善できるよう取り組んでいきたいです。」等の感想を得，教育について改めて考える機会となった。

２　県美展奄美関連作家展

期間：平成２８年６月５日（日）～６月２６日（日）

場所：企画展示室　期間中の入館者数：１，６７７名

内容：　第６３回県美展において入選，入賞した奄美関連作家らの作品，洋画２０点，日本画２点，工芸１点，写真１９点の合計４２点を展示し，島内外の美術愛好家に紹介するとともに，奄美群島の芸術発展に寄与することを目的に開催した。６月１２日のフロアトークでは，出席した２１人の作家が作品について解説をした。

今回の展示では，奄美群島から出品し，県美術協会賞をはじめ，奨励賞を受賞した作品や多数の入選作品に加えて，田中一村記念美術館賞の作品も展示した。

来館者からは「個性豊かで，キャンパスに無心で向き合う姿が目に浮かんできました。」，「島の良さがあふれていて良かったです。これからも作品楽しみにしています。」，「当たり前にある自然がこんなに綺麗なんだと改めて発見させてもらったような気がしました。」等，多くの感想を得た。

３　田中一村記念スケッチコンクール作品展

期間：平成２８年９月１７日（土）～１０月２日（日）

場所：企画展示室　期間中の入館者数：２，０１９名

内容：　奄美群島内の小・中学生を対象に奄美の自然や生活，行事などをテーマにスケッチ作品を募集。応募のあった６６６点の作品から，入選，入賞した３４１点を展示した。奄美群島内６６校の小中学生の応募があり、昨年度の応募総数より１３９点の増となった。学校での学びを活かしながら，奄美の自然や、それぞれの体験や地域への思いなど，個性豊かに表現した作品が多かった。

展示期間中の９月２４日（土）午後２時からは授賞式を開催し，受賞した児童生徒９名とその家族や関係者の参加があり，受賞者らは嬉しそうに賞状と記念品を受けとった。

来館者からは「それぞれの感性で描かれていて，とても楽しくほほえましく見させてもらいました。」，「様々な絵画を鑑賞する機会となり，子どもの良い刺激になったと思います。」などの感想を得た。

４　第１５回記念奄美を描く美術展

（１）本展

期間：平成２８年１０月２３日（日）～１１月１５日（火）

場所：企画展示室　期間中の入館者数：３，１００名

内容：　奄美を描く美術展は，全国の美術を愛好する方々が奄美を訪れ，奄美の風物や文化に接し，作品を発表する機会を提供するとともに，奄美の文化振興，観光の発展に寄与することを目的に開催している。第１５回目となった今回は，全国から１２４点（油彩，水彩，アクリル，パステル，七宝，工芸など）が寄せられ，審査を経て，入賞１２点，入選４９点の計６１点を展示した。

審査員長中野嘉之氏（多摩美術大学名誉教授）は「写実・抽象などのジャンルや油彩，日本画，水彩などの表現方法が多彩でレベルが高く，難しい審査であった。出品者の年齢や経験も多様であり，それぞれが自分の奄美のイメージを表現しようとする工夫，意欲を強く感じた。地道で丁寧に取り組みながら，若い人を中心にユニークな発想もみられ，これからの仕事内容の動向が興味深い。対象に真正面から取り組む中で自然への畏敬の念が表現されているところに特徴がある，本展覧会の今後が益々楽しみである」と総評した。

来館者からは「すばらしい作品ばかりで感動致しました。奄美の良いところがいっぱい表現されていて良かったと思います。」，「奄美にもたくさんの画家がいるのに感心しました。才能ある人たちの発表の場をたくさん設けて欲しいです。」などの感想や意見を得た。

（２）巡回展

期間：平成２８年１１月２８日（月）～１２月３日（土）

場所：美術家連盟画廊（東京都）　入館者数：３２２名

内容：　奄美を描く美術展は節目の１５回目を迎えた。１５回を記念した巡回展を，今回，東京・銀座の美術家連盟画廊で開催した。本展でも展示をした入賞１２点，入選（賞候補作品）１６点の計２８点を展示した。また，特別出品として歴代審査員の作品を展示することができた。

また，オープン初日にはオープニングレセプション

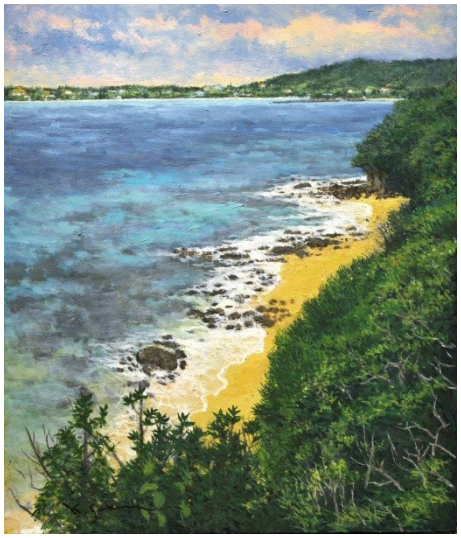
（１７：３０～１９：００）を行い，約５０名の参加者が作品を前に関係者の交流を深めた。牧岡奈美さんに島唄を披露していただき，奄美らしさで会場が包まれた。関東在住の奄美関連の方々や名瀬美術協会の協力により，素晴らしい展示会となった。開会にあたり宮崎緑館長は「それぞれの奄美を表現した作品群に堂々とした感性を感じる」とあいさつした。また本年度の審査員長・中野嘉之氏は「奄美という土地の魅力に作家の視点が輝いている」と述べた。

来館者からは「東京で奄美の作品を鑑賞する機会が得られてすばらしかった。会場全体から奄美らしさを感じる。また訪れたい。」，「東京で奄美を懐かしく感じるとともに奄美のよさを再発見することができた。」などの感想や意見を得た。

（３）入選・入賞作品

奄美を描く美術展大賞
「阿室海景Ⅲ」
Ｆ１５　水彩・グワッシュ　山口　明日香（宇検村）
水，風，流れなどを俯瞰して海の流動的な良いフォルムを生み出している。透明感やきらめきを感じさせる色調で，臨場感のある作品である。

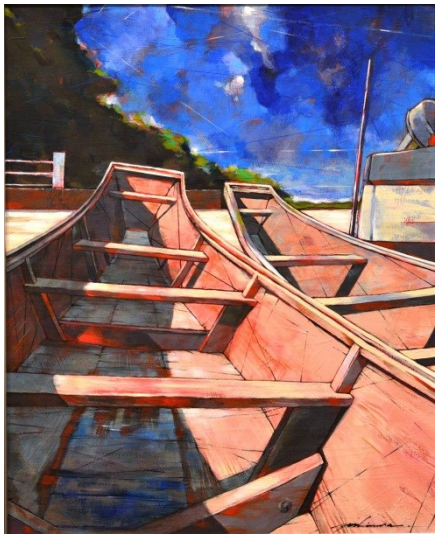
田中一村記念美術館賞
「杜の響」
Ｆ１５　油彩　井上　伸久（奄美市）
正面から対象に対峙して丁寧に描写している。森の空気感，光の表現など高い力量を感じる。人物と背景が見事に溶け合い，森の奥から鳥の鳴き声なども聞こえてくる。力作である。



優秀賞
「奄美の海（ネイティブシー）」
Ｆ１０　油彩　櫻井　啓造（埼玉県）
難しい構図を効果的に生かした作品である。手前の砂浜と遠くの稜線が対比的に表現され，その中に配された木々や波が奄美の海岸の空気感を感じさせる。

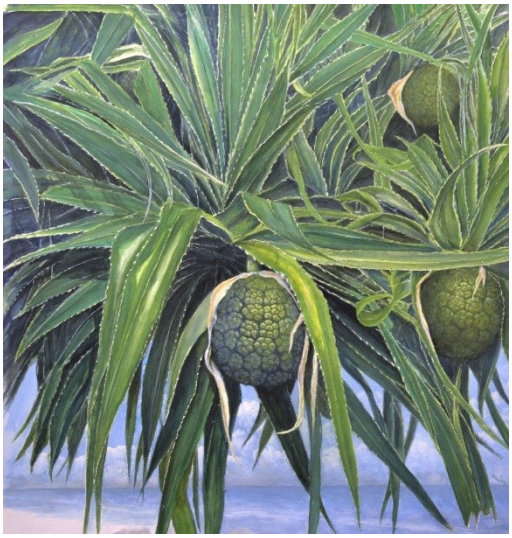
優秀賞
「風の島」
Ｆ１５　油彩　樺山　八壽代（伊仙町）
手前のサトウキビのざわめき，遠くに見える波など，色や形で強い風を表現している。サトウキビの下部の力強い表現や動きのある葉など，思いがよく伝わる気持ちのよい作品である。

優秀賞
「彼方」
Ｓ１０　油彩　平野　良光（徳之島町）
海底の微生物や機械的な対象を配し，静かな中に動きを感じる。小さい画面であるが密度の濃い，作者独自の空間が広がっている。今後の様々な表現の広がりが楽しみである。



優秀賞
「祭りのあと」
Ｆ１５　アクリル　吉村　英彦（奄美市）
板付け船に左からあたる影が時間帯を感じさせ，奄美の空気感を伝えている。船の並びなど構図もよく練られている。祭りのあとの静寂さを感じさせる。

優秀賞
「礁」
Ｐ１５　七宝　髙塚　ヒサノ（鹿児島市）
大胆な構図と美しい色調が目を引く。凝視していると，次々といろいろなものがいい形として，声として，音として立ち上がってくる。優れた技量が心を打つ。



佳作・奄美の海賞
「アダン」
Ｓ１５　油彩　丸山　良二郎（鹿児島市）
奄美の海，空，アダンの形が美しく配置されている。海にかかるアダンの葉先と海の奥行きのバランスが絶妙である。海や空の青と葉の緑が爽やかな空間を演出している。

佳作・奄美の空賞
「ヒズキの音色ⅱ」
Ｆ１５　油彩　瀧田　秀子（奄美市）
大島紬の織りの様々な工程を想起させる配置が，宇宙への広がりを感じさせる不思議な構図である。線の並び，コマの配置，色などものの解釈が面白い作品である。

佳作・奄美の杜賞
「マングローブ」
Ｆ１５　水彩　原崎　健次（熊本市）
自由な心でマングローブをとらえて，空や水，樹木を独特の表現で描いている。森の中をカヌーで進むときの瞬間をとらえて心の赴くままに描いた作品から空気感が伝わってくる。

ヤング賞
「奄美まるごと！」
Ｆ１５　油彩　川俣　明日香（霧島市）
小さな画面に豊かな発想で奄美の面白さを表現している。濃い色のテーブル，三角形の大胆な構図，左に食す姿，右上に手を描く発想が非常に面白い。描写も丁寧である。若い力に期待したい。

シルバー賞
「ダチュラ連」
Ｆ１５　水彩　山田　望（奄美市）
白い花，緑の葉，茶色の幹がバランス良く配置され，奥の花の描き方によって空間の厚みが表現され，揺れているようなダチュラの花により風を感じる。

【審査総評】
　写実，抽象などのジャンルや油彩，日本画，水彩などの表現方法が多彩でレベルが高く，難しい審査であった。出品者の年齢や経験も多様であり，それぞれが自分の奄美のイメージを表現しようとする工夫，意欲を強く感じた。地道で丁寧に取り組みながら，若い人を中心にユニークな発想もみられ，これからの仕事内容の動向が興味深い。対象に真正面から取り組む中で自然への畏敬の念が表現されるところに特徴がある，本展覧会の今後が益々楽しみである。
　審査員長　中野　嘉之（多摩美術大学名誉教授）

５　その他の企画展

（１）開館１５周年記念企画展「田中一村応援団」

①展示

期間：平成２８年８月２０日（土）～９月４日（日）

場所：企画展示室　期間中の入館者数：１，４２１名

内容：　開館１５周年を記念して企画展示室において，企画展「田中一村応援団」を開催した。

　生前は顧みられることのなかった一村の作品は，没後，有志の方々によって広く知られることとなり，田中一村記念美術館の開館へとつながっていった。

　今回の企画展では，スケッチや筆などの遺品や一村が撮影した写真も展示し，奄美での一村の行動をより具体的に伝えることができた。また，一村が奄美に来るにあたって購入した「ピカソ画集」を軸に，一村とピカソを比較する展示も行い，二人の天才の共通点についても焦点をあてた。

　島内外から多くの来館者があり「奄美に来て，自分の本当の画風を見つけ確立したことがよく分かった。」，「奄美の風土の中でみる一村が格別な理由が分かった気がする。」，「一村さんが撮られた写真も島の生活が感じられて懐かしく拝見した。」，「絵だけでなく写真やピカソに関するものもあり，とても見応えがあった。」等の感想を得た。

②作品解説

日時：平成２８年９月４日（日）１３：３０～１４：３０

場所：レクチャールーム，田中一村記念美術館

参加人数：２８名

内容：　奄美の郷レクチャールームにおいて，田中一村の生涯についてスライドを用いながら説明した。

　はじめに，栃木で生まれ東京に移住したこと，その後，千葉，奄美と移り住んだこと，それぞれに作風が変わっていき，奄美にくることで一村が自らの本道と信じる絵に出会えたことなどを説明した。

　次に，ピカソを敬愛していた一村について，遺された画集のこと，その画集にまつわるエピソード，一村とピカソの共通点などについて説明した。

　最後に，美術館に移動し展示作品をみながら解説を

加えた。多くの一村ファンがメモを取りながら聴き入り，熱心に鑑賞した。

参加者からは「丁寧な説明で一村さんの思いを絵を通して感じることができた。」，「一村さんを支えた皆さんのあたたかい気持ちが彼の画家としての人生を支えたことに感動した。」，「画家としての命をかけた奄美での作品の素晴らしさをよく理解できた。」等の感想を得た。

（２）龍郷町立小・中学校図画工作・美術学習発表展

期間：平成２８年１１月２７日(日)～１２月１１日(日)

場所：企画展示室　期間中の入館者数：１，３８７名

内容：　児童生徒の創作活動への興味・感心，意欲を高めるとともに，美術館を身近に感じてもらうために，龍郷町立の小学校７校と中学校３校の児童生徒が授業で制作した絵画・立体の作品を美術館に展示した。また保護者や地域住民に，学校の学習内容や児童生徒の様子を理解してもらい，指導内容等についての情報交換の場となることも意図して展覧会を実施した。

期間中は多くの入場者があり，学校での指導，子どもたちの豊かな発想について語り合う姿がみられた。

来館者からは「それぞれの学年の子どもたちの発想がいかされた作品で，楽しさが伝わってきた。」，「どの学校でも楽しく図画工作・美術の時間に活動できている様子がうかがえて楽しかった。」，「一般の人も子どもたちの作品から元気をもらうことができる。」などの感想を得た。

６　芸術文化講演会及び美術講演

開館１５周年記念企画展「田中一村応援団」オープニングイベント

日時：平成２８年８月２０日（土）１３：３０～１６：００

場所：屋内イベント広場　来場者数：１２０名

内容：　奄美の郷イベント広場において，開館１５周年記念企画展「田中一村応援団」の開催を記念したイベントを行った。

はじめに奄美の唄者前山真吾氏による島唄の披露（お囃子　向珠理氏）があり，前山氏による祝いの唄が会場に響き渡った。

記念講演「昭和の若冲，田中一村を応援する」で山下裕二氏（明治学院大学教授）は，田中一村と伊藤若冲の作品を比較しながら，両者の観察の深さや確かさ，対象の本質を表現する技術の高さについて画像を交えながら解説した。また，田中一村作品に見られる逆光の表現を取り上げ，写真の影響について述べた。

鑑賞発表「一村の絵に学ぶ」では５人の小中学生が登壇し，一村の作品の画像の前で絵から感じたことをそれぞれの視点で発表した。小学生はしっかりとした態度で，中学生は英語も交えながら発表を行い，会場から温かい拍手がわき起こった。

塩津青夏氏（愛知県美術館学芸員）と花山潤治氏（田中一村記念美術館学芸専門員）は，対談「一村が敬愛した画家，ピカソ」というテーマでピカソと田中一村を比較した。共に神童と呼ばれた幼少期，確かなデッサン力，時代で変容する画風などの中に共通点を見いだした。

会場では，多くの美術ファン，一村ファンがメモを取りながら聴き入り，頷きながら充実した時間を過ごしていた。

７　創作体験教室ほか

（１）創作体験教室・楽しい絵画教室「奄美を描こう」

日時：平成２８年５月２２日(日)１０：００～１６：００

場所：レクチャールーム　参加者数：１０名

内容：　当美術館初代学芸専門員で川辺高等学校に非常勤講師として勤務している西村康博氏を講師に招き，日本画の創作体験教室を開催した。

　参加者は墨や日本画の水彩絵具を使い季節の植物や野菜をテーマにそれぞれの作品制作に挑戦した。講座では制作の手順や日本画の特徴の説明のあと，植物や野菜などの題材を決め，木炭で下書きをした。その後，墨で輪郭を描き，日本画水性絵具を使って作品を作成した。途中，講師が参加者の作品を見てまわり，参加者へ声を掛け，アドバイスなどをおくった。それを参考に彩色を施し，作品を完成させた。最後に，完成した作品に西村氏が講評を行い，互いの作品を鑑賞した。講師からは「今回は一村の南画を参考に木炭であたりを付けたり，日本画用の水彩絵具を使った表現方法に挑戦したりしていただいた。みなさん，モチーフをしっかり見ながら描いている。」とまとめていただいた。

　参加者は「墨の使い方について指導を受けることで自分の絵が良くなることが実感できた。」，「墨を使わない部分の描き方が難しかったが，新しい表現を知り楽しかった。」等との感想を得た。参加者全員が熱心に創作活動に取り組み，今後も時間を見つけて描いてみたいなどの声も聞かれた。

（２）一村・子どもワークショップ「一村の絵に学ぶ」

日時：平成２８年７月２４日(日)１３：３０～１６：３０

場所：レクチャールーム，田中一村記念美術館

参加者数：２３名（小学生１２名，中学生４名，協力者７名）

内容：　小中学生の希望者を対象に，郷土の自然を題材にした絵画に親しむとともに，自分で考えたことを伝える力の向上を図るために，田中一村の作品を鑑賞し，作品のよさや感じ取ったことを伝える活動を行った。

　子どもたちは，まず「不喰芋と蘇鉄」について，全体で鑑賞のポイントについて学んだ。その後，３つの

グループに分かれて協力者の指導のもと、自分の感想をまとめていた。まとめとして，小学生は日本語か英語で，中学生は英語でスピーチを行い，お互いの感想を分かち合うことができた。

子どもたちからは，「スピーチが苦手だったけど，今回やったことでスピーチが好きになった。」，「英語で発表するのは難しいかなと思ったけど，先生が教えてくれてすごく良かった。」，「もっと色々な植物のことを知りたいと思った。」，「田中一村さんの絵を見て，対比している物や色，形，想像した音などを考えて，奄美の自然を詳しく知ることが出来た。」等の感想を得た。

（３）夏休み親子「織り体験」

日時：平成２８年８月２７日（土）
午前の部　１０：００～１２：００
午後の部　１３：３０～１５：３０

場所：レクチャールーム　参加者数：１７名

内容：　奄美市笠利町で「工房しまむたび」を運営する植田正輝氏を講師に招き，奄美の伝統工芸である大島紬の織りの工程について，仕組みを理解したり楽しさを味わったりすることを目的に織り体験を行った。

参加者は，まず始めに準備してあった段ボールを使って織りの道具を作成し，その後，織りの道具を使って糸を布にしていく体験をした。はじめはうまく織れなくて困った表情を見せる参加者もいたが，説明を聞きながら次第に上手に織れるようになっていった。織りを進めるうちに上達し，色を変えたり織りの模様を変えたりと，工夫を加えるようになっていった。コースターや小銭入れに挑戦したいという声も聞かれた。それぞれ作った道具一式を持ち帰り，家で続きを作成することとなった。

参加者からは「難しかったけれど，色んな色の糸を入れられて楽しかった。」，「織りの仕組みが少し分かった。家に帰ってコースターを作りたい。」等の感想を得た。

織りの仕組みを理解しながら自分なりの工夫をすることができて，奄美に伝わる伝統工芸の奥深さにふれてもらう機会となった。

（４）内藤敏子チター演奏会

日時：平成２９年２月８日（水）１６：００～１７：３０

場所：企画展示室　入場者数：約１３０名

内容：　日本におけるチターの第一人者，日本チター協会会長の内藤敏子氏を招き，「内藤敏子チター演奏会」を開催した。

　内藤氏は武蔵野音楽大学短期大学部を卒業後，スイスに留学し世界的チター奏者に指導を受け，帰国後は日本フィルハーモニーなどのオーケストラとの共演，「ＮＨＫ名曲アルバム」,「題名のない音楽会」,「ラジオ深夜便」などにも出演している。また，日本初のチター教育機関を設立し広く普及と育成に尽力している。演奏会では，「エーデルワイスの花の咲く頃」や「『映画第三の男』より菩提樹の木の下で～ハリー・ライムのテーマ～」など計 11 曲を披露し，多くの観客を楽しませ，心に響く演奏会となった。観客からは「初めて聴く楽器だったが，優しく素晴らしい音色だった。」，「森の中の小川を流れる水の音のようだった。」等の感想を得た。

（５）創作体験教室「人物画講座」

日時：平成２９年２月１８日（土）・１９日（日）１０：００～１６：００

場所：企画展示室　受講者数：１５名

内容：　西健吉先生（二科会鹿児島支部長・鹿児島県美術協会会員）を講師に，毎年開催している創作体験教室「人物画講座」を開催した。モデルは今回が初めてとなる山口つぐみさんに２日間依頼した。

　１日目は，５分のクロッキーで４ポーズ，その後固定ポーズを描き，２日目も，５分のクロッキーで４ポーズ，その後 1 日目とは異なる固定ポーズを描くという日程で行った。参加者はモデルの特徴を捉え，油彩や水彩，アクリル等で人物画の制作に取り組んだ。特に２日目には，積極的に西先生からの絵に対する助言を受け，それぞれに個性ある作品を制作した。

　最後に制作した作品一つ一つについて，西先生が講評を行い，互いの作品を鑑賞した。

　参加者から「西先生の指導や講評が制作を進めるうえで大きなヒントになった」,「他の参加者の作品もとても参考になり，集中して取り組むことができた」等の感想を得た。

第５　各種イベント・美術館企画展ポスター等

キッズダンスフェスタ2016
出演者決定!
6月19日(SUN)
13:30〜15:00
開催場所
奄美パーク屋内イベント広場
出演者 Hula−みんご
Hālau O Lehua O Kalani 奄美大島校
ダンススクール CORE
AMO DANCE SCHOOL
※記載している出演者の順番は当日のプログラムとは異なる場合がございますのでご了承ください。
鹿児島県 奄美パーク

旅の始まりは奄美パークで
しまうたミニライブ
平成28年7月31日(日)
8月21日(日)
8月28日(日)
全て 13:30〜14:00
出演
日本民謡協会 奄美連合委員会
山ゆり会
場所
奄美パーク 屋内イベント広場
入場無料
光・風・夢あふれる
未来へのゲートウェイ
鹿児島県 奄美パーク

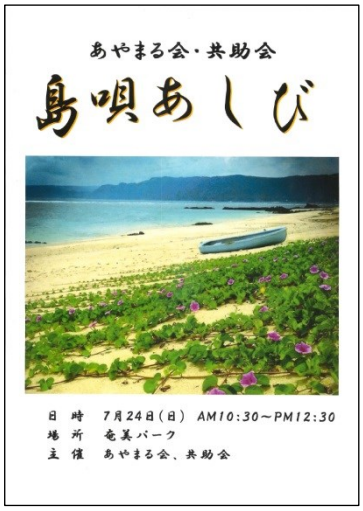
奄美の郷ライブステージ
入場無料!
月に焦がれて
出演者:奄美歌謡グループ・夕月会
平成28年9月11日(日)
午後1時30分〜
奄美パーク 屋内イベント広場
久志 哲美
中島 章
福永 則雄
森 ミエ子 森 博信
奥 絹代
平 紀久美
久志 哲美
平 清夫
別府 勝成
鹿児島県 奄美パーク

平成28年
11月6日(日)午後1時30分〜
場所:奄美パーク 屋内イベント広場
内容:瀬戸内町民による舞踊・島唄など
奄美の郷ライブステージ【瀬戸内町】
ゆらう
−入場無料−
鹿児島県 奄美パーク

奄美パーク
パフォーマンスバトル2017
あなたが主役!
出場者決定
2017 2.12 Sun
13:30〜15:30
奄美パーク 屋内イベント広場
入場無料
出場者
成親実倫 (島唄)
リコフラダンス教室 (ダンス)
バスタン crew (ダンス)
高田佐国雄 (楽器演奏)
アヌエヌエ・喜界フラ (ダンス)
トゥルーフレンズ (ダンス)
量子八月踊り研究会 (踊り)
西原ゆな (ダンス)
瀬戸内町ひざや節会 (唄)
栄菜々子 (ダンス)
奄美フォークダンスクラブ (ダンス)
B→Matonds☆Dance Studio (ダンス)
クラウンシバッチ (手品)
俳武台奄美門詠会 (詩吟)
Hula−みんご (ダンス)
Sei−chan
鹿児島県 奄美パーク

奄美パーク開園15周年記念
★メダリストがやってくる!
文化講演会
入場無料!
2016年11月20日(日)
奄美パーク 屋内イベント広場 13:30〜
栄 和人 氏
日本レスリング協会 強化本部長
至学館大学レスリング部監督
吉田 沙保里 選手
アテネ・北京・ロンドン五輪 55kg 級金メダル
リオ五輪銀メダル
★スペシャルゲスト 登坂 絵莉 選手 土性 沙羅 選手
(リオ五輪 48kg 級金メダル) (リオ五輪 69kg 級金メダル)
鹿児島県 奄美パーク

第8弾 島んちゅ会
・でぃ〜まぁじんま!
シマ唄・三線合奏・舞踊・オオクィクィバンド
日時 6月5日(日) 13:30〜15:30
場所 奄美パーク 屋内イベント広場
主催 島んちゅ会 (福山幸司・平久美)
入場無料 お問合せ先(平久美)090-5930-8100


あやまる会・共助会
島唄あしび
日時 7月24日(日) AM10:30〜PM12:30
場所 奄美パーク
主催 あやまる会、共助会

奄美太鼓祭りin奄美パーク
鼓
時間:2016.11.5(土)開演13時30分〜
場所:奄美パーク 屋内イベント広場
主催:奄美太鼓連盟
祭
ちぢん・和太鼓・エイサー・島唄など島内・島外の団体が
出演予定です。入場無料です(^^♪
(問合せ先) TEL 090-7299-4985 奄美太鼓連盟 山田

ホースセラピー講演会
～ホースセラピーの現状～
局 博一
東京大学名誉教授
深井 邦弘
一般社団法人 会津就労福祉支援事業団 代表理事
日時 11月13日(日) 午後1:30～3:00
場所 奄美パーク
参加費 無料
主催 一般社団法人 奄美雇用福祉支援協会
奄美共生園、共生園・のぞろ
あまのすけ(にこちゃホース)との ふれあい体験もあるよ～
オープニングで、お待ちあるよ～
問い合わせ先:080-8554-1513(中野 忠)

アマービレ吹奏楽団
スプリングコンサート
平成29年2月19日(日)
入場無料 開演 14：00～
奄美パーク 屋内イベント広場
♪ ポップス ステージ
♪ アンサンブル ステージ
主催 ： アマービレ吹奏楽団
《お問い合わせ先》 優悠プラザ（関野）：0997-53-4221
《 LINE@はじめました！ 》
アマービレ吹奏楽団のイベントなどを、LINEでお知らせいたします。
お友達登録は、ＬＩＮＥアプリメニューの「その他」→「友だち追加」にて「QRコード」を選択して左のQRコードを読み取ると、友だち追加できます。よろしければ、ご登録ください！
《 Facebook ページ 》
https://www.facebook.com/amamiamabire/

奄美パーク開園15周年記念
感じよう！奄美の自然!!
～世界自然遺産登録に向けて～
平成28年8月24日（水）
午後7時～午後9時
場所：奄美パーク
屋内イベント広場・多目的広場
① 希少野生生物について知ろう！
② 天体観測で自然を感じよう！
入場無料
協力：
奄美野生生物保護センター
鹿児島県立奄美少年自然の家
鹿児島県 奄美パーク
〒894-0504
鹿児島県奄美市笠利町節田1834
Tel:0997-55-2333
Fax:0997-55-2612
http://www.amamipark.com/

奄美パーク開園15周年記念
バブルサッカー大会
出場者募集
1. 開催日時
平成28年10月23日(日) 9時～15時
2. 開催場所
鹿児島県奄美パーク 多目的広場
3. 参加料
無料
4. 内 容
5. 参加方法・参加資格
6. 応 募
7. 問い合わせ先
バブルサッカーとは？
鹿児島県 奄美パーク
〒894-0504
鹿児島県奄美市笠利町節田1834
TEL 0997-55-2333 HP http://www.amamipark.com/
FAX 0997-55-2612 ブログ http://ap129.amamin.jp/

奄美パーク
すべて参加無料!!
文化の日は有料ゾーンの観覧料が無料になります
11/3(木・祝)
文化の日イベント
昔あそび体験会
けんむんクイズラリー
田中一村ちびっ子鑑賞会
お得な年間パスポート
多目的広場で遊ぼう！
遊びに来てね！
鹿児島県 奄美パーク
〒894-0504
鹿児島県奄美市笠利町節田1834
TEL 0997-55-2333 HP http://www.amamipark.com/
FAX 0997-55-2612 ブログ http://ap129.amamin.jp/

第10回奄美パーク
子どもクリスマス会
平成28年12月18日(日)
入場無料
【午前の部】10時～11時30分(受付開始 9時30分)
【午後の部】14時～15時30分(受付開始 13時30分)
場所：奄美パーク屋内イベント広場
SOLA
チルドレン
レクリエーション
クリスマス大抽選会
クリスマス大抽選会について
奄美パーク
HP:http://www.amamipark.com/ BLOG:http://ap129.amamin.jp/

雨の日は、暑い日は、何もなくても奄美パークへ行こう!!
新しくなったよ♪
キミはこのミッションが解けるか？
けんむんクイズラリー
H28. 10. 01～
renewal
あそびに来てね！
鹿児島県 奄美パーク
鹿児島県奄美パーク
〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町節田1834
Tel:0997-55-2333 Fax:0997-55-2612
HP http://www.amamipark.com/
BLOG http://ap129.amamin.jp/

本場奄美大島紬協同組合(伝統大島紬)
鹿児島県工業技術センター奄美市駐在(創作デザイン)
大島紬の伝統・創作
デザイン展
■ 平成２８年３月２７日（日）～ 平成２８年４月１７日（日）
田中一村記念美術館 企画展示室 観覧無料
開館時間 9:00～18:00(最終日は16:00まで)
4月6日(水)は休館となります。
■ 関連イベント フロアートーク(伝統大島紬及び創作デザイン解説)
日 時:3月27日(日)14:00～15:00 参加無料
会 場:田中一村記念美術館企画展示室
主催 鹿児島奄美パーク・田中一村記念美術館
共催 鹿児島県工業技術センター奄美市駐在
本場奄美大島紬協同組合
後援 南日本新聞社、奄美新聞社、南海日日新聞社、
NHK鹿児島放送局、あまみエフエム・ディ・ウェイヴ
鹿児島県奄美パーク
田中一村記念美術館

琉球弧の祈り
～前畑省三「神女誕生」シリーズから～
■ 平成２８年５月１日（日）～平成２８年５月２２日（日）
■ 田中一村記念美術館 企画展示室 観覧無料
開館時間 9：00～18：00（最終日は16：00まで）
5月18日（水）は休館となります。
関連イベント フロアートーク（作家による作品解説） 参加無料
日 時:5月15日（日）14：00～15：00
会 場：田中一村記念美術館企画展示室
主催 鹿児島奄美パーク・田中一村記念美術館
後援 南日本新聞社、奄美新聞社、南海日日新聞社、
NHK鹿児島放送局、あまみエフエム・ディ・ウェイヴ
鹿児島県奄美パーク
田中一村記念美術館

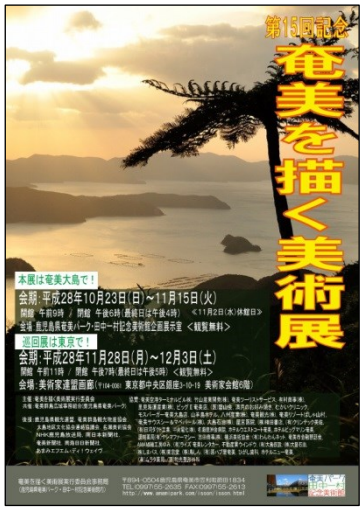
Shojo Manga and Women's Prints from the Terrace
少女マンガパワー!!展
in 奄美
7/16 土 — 8/7 日
田中一村記念美術館
9:00am-7:00pm 観覧無料
オープニングイベント
漫画展示の新たな試み。テーラー(奄美美術館所蔵)のアートとタエ・マンガどのコラボレーション
わたなべまさこ
松本零士
水野英子
牧美也子
里中満智子
美内すずえ
萩尾望都
くらもちふさこ
吉田秋生
岡野玲子
今市子
よしながふみ
漫画イラストのワザ
クロージングセレモニー
海外におけるマンガの受容と広がりにおいて
コーラス de アニソンタイム
萩尾望都 ステージトーク
お問合せ●0997-52-1816(名瀬公民館)

ZENG LINGFU-ZENG QIN-ZENG LI
曾令富・曾勤・曾黎父娘三人展
田中一村記念美術館 企画展示室
2016年12月25日(日)-2017年1月8日(日)
9：00～18：00(最終日16:00まで) 休館日1月4日(水) 観覧無料
奄美の自然を描く―
田中一村の世界に魅了されて
主催：日中現代墨画会
共催：鹿児島県奄美パーク・田中一村記念美術館
後援：中国駐日本大使館文化部、日本中国文化交流協会、
高崎市、南海日日新聞社、奄美新聞社、上毛新聞社、
群馬テレビ、あまみエフエム・ディ・ウェイヴ、
エフエム群馬、NHK文化センター前橋支社、
読売・日本テレビ文化センター高崎支部、
読売・日本テレビ文化センター大宮
関連イベント 12月25日(日)
■フロアトーク
13:30～14:00（企画展示室）
■ライブペインティング
14:10～14:40（奄美パークイベント広場）
曾令富・勤・黎と墨絵愛好者による即興による
島唄と絵画の共演
■水墨画無料体験
15:00～16:00（奄美パークイベント広場）
「奄美恋歌」曾令富
「桜」(部分)曾勤
「月No.巻」(部分)曾黎
鹿児島県奄美パーク・田中一村記念美術館 〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町里10 1834 TEL.0997－55-2635

前田康裕まんがイラスト展
～教室の学びを拓く～
平成29年2月25日(土)～3月12日(日)
田中一村記念美術館 企画展示室 観覧無料
開館時間9：00～18：00（最終日は16：00まで） 3月1日(水)は休館
関連イベント<講師：前田康裕氏(熊本市公立小学校教諭)>
◇ ギャラリートーク
日 時:2月25日(土) 13:30～14:10
会 場：田中一村記念美術館 企画展示室
※(参加無料，どなたでも参加いただけます)
◇ 教育講演会
日 時:2月25日(土) 14:20～16:30
会 場：奄美パーク レクチャールーム
※(参加無料，事前の申込が必要です)
◇ 教育講演会の内容 ※(教育講演会参加申込→電話0997－55－2635まで)
アクティブラーニング，「学ぶ」とは何か，教室での評価，長続きする自己評価，教師の学び
知的生産の方法，メディアとのつきあい方，「まんがで知る教師の学び」制作の過程，他
主催：鹿児島県奄美パーク・田中一村記念美術館
後援：奄美新聞社，南海日日新聞社，南日本新聞社，あまみエフエム・ディ・ウェイヴ，NHK鹿児島放送局
鹿児島県奄美パーク・田中一村記念美術館 〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町里1834 TEL.0997-55-2635／FAX.0997-55-2613 http://www.amamipark.com/

県美展
奄美関連
作家展
【洋画】
池田 三樹子、井上 伸久、今村 富枝
園 由利夏、榊山 八重代、義岡 久嘉
久保井 博恭、重 博勝、正田 愛恵
すずき あけみ、鈴木 るり子、瀬 芳男
平 芳子、田河 美紀子、石山 潤治
寛 文雄、藤山 彩乃、恵 スマ
吉村 英彦、渡 洋子
【日本画】
東村 敏光、土屋 トシ子
【工芸】
有田 傳子
【写真】
赤塚 リエ子、中 勉、池水 順二
稲 光政、大重 満智子、屋宮 矣辰
加川 敬、上村 むつ子、久野 末男
武部 守俊、田畑 よりず、中尾 正子
福永 加代子、福山 由美子、益満 久美
森 美佐子、安村 フミ子、吉行 秀和
渡 祥子
平成28年
6.5(日)～6.26(日)
休館日：6.15(水) 観覧無料
開館時間：9時～18時(最終日16時)
田中一村記念美術館企画展示室
関連イベント フロアトーク(作家による作品解説)
6.12(日)午後2時～
鹿児島県奄美パーク・田中一村記念美術館
〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町里1834
電話 0997-55-2635／FAX 0997-55-2613
http://www.amamipark.com/

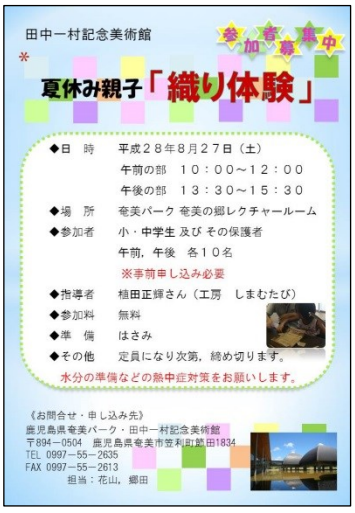
田中一村記念
スケッチコンクール作品展
9月17日(土)～10月2日(日)
休 館 日 9月21日（水）
開館時間 9:00～18:00
最 終 日 16:00 終了
田中一村記念美術館 企画展示室
観覧無料
表彰式 9月24日(土)14:00 企画展示室
(田中一村記念美術館賞、優秀賞受賞者)
鹿児島県奄美パーク 田中一村記念美術館 〒894-0504鹿児島県奄美市笠利町里1834
TEL：0997-55-2635 FAX：0997-55-2613


第15回記念
奄美を描く美術展
本展は奄美大島で！
会期：平成28年10月23日(日)～11月15日(火)
開館 午前9時 / 閉館 午後6時(最終日は午後4時) <11月2日(水)休館日>
会場：鹿児島県奄美パーク・田中一村記念美術館企画展示室 <観覧無料>
巡回展は東京で！
会期：平成28年11月28日(月)～12月3日(土)
開館 午前11時 / 閉館 午後7時(最終日は午後5時) <観覧無料>
会場：美術家連盟画廊(TIM-008) 東京都中央区銀座3-10-18 美術家会館6階

開館15周年記念企画展
田中一村応援団
平成28年8月20日（土）～平成28年9月4日（日）
田中一村記念美術館 企画展示室 観覧無料
開館時間 8月中：9時～19時 9月中：9時～18時(最終日は16時まで)
オープニングイベント 参加無料
日 時：8月20日（土）13：30～16：00
会 場：奄美パーク屋内イベント広場
○ あいさつ 宮崎 緑（田中一村記念美術館館長）
○ 島唄披露 前山 真吾（唄者）向 琢理（囃子）
○ 記念講演「唄和の若冲、田中一村を応援する」
講師 山下裕二（明治学院大学教授）
○ 発表「一村の絵に学ぶ」(奄美の小中学生の皆さん)
○ 対談「一村が敬愛した画家、ビュフィ」
対談者 塩津育夏（愛知県美術館学芸員）
花山潤治（田中一村記念美術館学芸専門員）
○ 閉会のことば 里村 強志（鹿児島県奄美パーク次長）
当館学芸員による解説 参加無料
日 時：9月4日（日）13：30～14：30
会 場：奄美パークレクチャールーム、田中一村記念美術館
主催 鹿児島県奄美パーク・田中一村記念美術館
後援 南日本新聞社、奄美新聞社、南海日日新聞社、
NHK鹿児島放送局、あまみエフエム・ディ・ウェイヴ
鹿児島県奄美パーク
田中一村記念美術館

龍郷町立小・中学校 〈観覧無料〉
図画工作・美術学習発表展
会期：平成28年11月27日(日)～12月11日(日)
《12月7日(水) 休館日》
参加校
小学校
秋名小学校
円小学校
大勝小学校
戸口小学校
龍郷小学校
赤徳小学校
龍美小学校
中学校
赤徳中学校
龍北中学校
龍南中学校
開館 午前9時 / 閉館 午後6時（最終日は午後4時）
会場：鹿児島県奄美パーク・田中一村記念美術館企画展示室
主催：奄美パーク 田中一村記念美術館
後援：龍郷町教育委員会
〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町節田1834
TEL.0997(55-2635) FAX.0997(55-2613)
http://www.amampark.com/room/room.html
奄美パーク 田中一村記念美術館

創作体験教室
楽しい絵画教室「奄美を描こう」
1 目 的 島や日本画水彩絵具を使って絵を描く活動を通して，日本画の特徴や表現することの楽しさを味わう。
2 日 時 平成２８年５月２２日（日）
１０：００～１６：００（昼食をはさむ）
3 場 所 鹿児島県奄美パーク 奄美の郷 レクチャールーム
4 講 師 西村 康博（当美術館学芸専門員，鹿児島県立川辺高等学校講師）
5 参加者 高校生以上(定員２０名) 要申込
6 参加費 無料
7 活動内容
(1) 制作の手順，日本画の特徴等を知る。
(2) 題材を決める。
(3) 下がきをする。（木炭であたりをとる。）
(4) 島で輪郭をかく。
(5) 日本画水性絵具で彩色する。
8 準 備 絵の題材となる植物，官製ハガキ（１～２枚程度），台拭き，昼食
熱中症対策
※日本画用絵具，筆，絵具皿，墨汁，水入れ，画用紙，木炭は美術館が用意します
9 申込方法 5月1日(日)から受付を開始いたしますので，
下記まで電話で本人が直接申し込みください。
定員になり次第，締め切ります。
10 連絡先（申込先） 鹿児島県奄美パーク・田中一村記念美術館
〒894－0504
鹿児島県奄美市笠利町節田1834
TEL 0997－55－2635
FAX 0997－55－2613
担当：花山・郷田


田中一村記念美術館
参加者募集中
夏休み親子「織り体験」
◆日 時 平成２８年８月２７日（土）
午前の部 １０：００～１２：００
午後の部 １３：３０～１５：３０
◆場 所 奄美パーク 奄美の郷レクチャールーム
◆参加者 小・中学生 及び その保護者
午前，午後 各１０名
※事前申し込み必要
◆指導者 植田正輝さん（工房 しまむたび）
◆参加料 無料
◆準 備 はさみ
◆その他 定員になり次第，締め切ります。
水分の準備などの熱中症対策をお願いします。
《お問合せ・申し込み先》
鹿児島県奄美パーク・田中一村記念美術館
〒894－0504 鹿児島県奄美市笠利町節田1834
TEL 0997－55－2635
FAX 0997－55－2613
担当：花山，郷田

内藤敏子チター演奏会
■平成29年2月8日（水）16：00～17：30
■田中一村記念美術館 企画展示室 入場無料
■演奏予定曲目：エーデルワイス、浜辺の歌、映画「第三の男」、他
■申し込みについて（電話０９９７－５５－２６３５まで）
当日の会場受付も可能ですが、予め申し込みを頂ければ席を確保いたします。
■内藤敏子氏（演奏法）は日本のトチター・ハープ・人才、日本チター協会会長の内藤敏子さんです。内藤さんは武蔵野音楽大学卒業後、スイスに留学し演奏的チター各者に影響を受けました。帰国後は日本フィルハーモニーなどのオーケストラとの共演、「NHK名曲アルバム」「題名のない音楽会」「ラジオ深夜便」などに出演するほか、日本初のチター教育機関を設立し、広く教育と指導に努力されています。ウィーンのチター奏者アントン・カラスとも親交が深く「第三の男」に関する著作も発表しています。
■チターとは：チターは電子音楽の原型楽器です。本の弦の上に５本のメロディー弦と30～40本以上の伴奏弦を張に張りメロディー弦を右手の親指にはめた金属製の爪（ピック）で弾き、残りの右の指で伴奏弦を弾いて音を出します。チターに似た楽器は世界中に発達しており、ハープやリュートの弾しチターの親戚です。チターの歌で有名なものは、ビールの CM にも使われている、映画「第三の男」のテーマです。この曲はアントン・カラスの作曲です。ジャンルは、クラシック、ポルカなどの伝統的なもの、パロックやルネサンス期の音楽、ラテンミュージックから現代音楽・ジャズ・ポップスまで多岐にわたります。親しい中白はきっとなじみ深く感じるでしょう。
鹿児島県奄美パーク
田中一村記念美術館
〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町節田1834
TEL.0997(55-2635) FAX.0997(55-2613)
奄美パーク 田中一村記念美術館

田中一村記念美術館
創作体験教室「人物画講座」
◆内 容 油彩や水彩による人物画の作品制作
◆日 時 平成29年2月18日(土)，19日(日)
10:00～16:00(昼食12:00～13:00)
◆場 所 田中一村記念美術館 企画展示室
◆対 象 高校生以上
◆定 員 18名(両日参加できる方) 要申込
◆指導者 西 健吉(二科会鹿児島支部長，鹿児島県美術協会会員)
◆参加料 無料
◆準 備 F8号～F15号のキャンバスもしくは紙を貼ったパネル，
スケッチブック，油彩画用しんくは水彩画の道具，鉛筆や
水彩などの描画材，敷物(新聞紙やレジャーシート)，
筆拭き等の布，雑巾
※イーゼル，カルトンは美術館で用意します。
◆申込方法 1月19日(木)から受付を開始いたしますので，
下記まで電話にてお申し込みください。
定員になり次第，締め切ります。
◆連絡先 鹿児島県奄美パーク・田中一村記念美術館
（申込先） 〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町節田1834
TEL 0997-55-2635
FAX 0997-55-2613
担当：花山，郷田

奄美パーク応援隊募集
鹿児島県 奄美パーク
■奄美の郷
■田中一村記念美術館
〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町節田1834
TEL 0997-55-2333 FAX 0997-55-2612
HP http://www.amampark.com/
BLOG http://ap129.amamin.jp/

第６　奄美パーク応援隊について

（１）結成目的

奄美パークの活動を支援し，魅力ある施設実現の一助とし，ひいては奄美群島の観光振興に寄与することを目的とする。

（２）隊員数

６０名（平成２９年３月３１日現在）

（３）年間活動回数（延数）

１５３回（平成２９年３月３１日現在）

（４）活動内容

奄美パーク応援隊は，施設内のガイドを目的に平成１５年度に発足した。

平成１８年度には，展示案内ガイド・手熟ガイド・園芸サポーター・一村サポーターと，４つの分科会を設けたが，それぞれの活動頻度が異なり分科会によっては，活動実績がない状況にあったため，再度，活動のあり方を見直した結果，平成２６年度より分科会を廃止し，展示案内・手熟（三味線やしまうた等）の披露・園芸活動・美術館活動・その他活動（奄美パークが企画したイベント，業務等への参加，園内の清掃）と，５つの活動内容で構成し，隊員はそれぞれ得意な分野や興味のある分野を中心に参加することとなった。

隊員には登録証を発行し，ボランティア活動保険への加入と，原則，年に２回以上の活動を義務付けている。登録証は応援隊の活動時以外でも，提示することで奄美パークの有料ゾーンに入ることのできるフリーパスにもなっている。

なお，事務局は月に一度，活動の予定や奄美パークの行事予定，活動報告などを掲載した「応援隊通信」を発行し，すべての隊員へ配付している。

（５）活動実績

展示案内については，隊員が自ら伴ったお客様を案内するケースが多く見られた。隊員は，お客様の要望

によって案内の内容を変え，より魅力あるガイドになるよう努めているようであった。

手熟の披露は，隊員がそれぞれの都合で来園し，あしびの庭の茅葺民家周辺でしま唄や三味線の弾き方，チヂンの叩き方などを来園者へ披露し，「楽しかった」など好評を得ていた。

園芸作業は，月に１回の作業日を設け，２階テラスの花壇を中心に手入れを行った。また，すべての花壇を万遍なく手入れし，夏と冬の２回それぞれ季節に合った花苗を植えた。色とりどりの花々が咲き乱れた花壇では，来園者が写真撮影をする様子などが見られた。

そのほか，平成２３年度３月からの有志による月２回の六調三線の練習も続いており，その成果を披露する機会となる団体客の見送りは高い評価を得ていた。また，その他活動として清掃活動も今年から行った。年２回の実施であったが，一村の杜に生えている外来種の除去や，雑草除去，歩道まで伸びたアダンの剪定などを行い，来園者が一村の杜を散策しやすいように努めた。

鹿児島県奄美パーク

事業報告書

リ ー フ

第 15 号

2017年4月発行

編集・発行　奄美群島広域事務組合

鹿児島県 ■奄美の郷 ■田中一村記念美術館

奄美パーク

〒894-0504 鹿児島県奄美市笠利町節田1834
Tel:0997-55-2333 Fax:0997-55-2612
HP http://www.amamipark.com/
BLOG http://ap129.amamin.jp/